

三 中国における邦人遭難事件

1 成都事件および北海事件

398 昭和11年8月25日 在漢口三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都における邦人遭難事件の発生を吳沢湘より通報について

漢口 8月25日後発
本省 8月25日夜着

第二二五號(至急)

重慶發本官宛電報

第四四號

大臣へ轉電アリタシ

第四七號

岩井ト同行シ來リタル大阪毎日記者渡邊洗三郎、上海毎日記者深川經二、滿鐵上海事務所員田中武夫、漢口商人瀬戸尙ノ四名ハ當地ニ於テ内地知照手續ヲ濟マシ二十一日成都

ニ赴ケル處二十五日吳澤湘當館ヲ來訪本官ニ對シ二十四日

成都小城公園ニ於テ反日設領大會開催午後示威運動行ハレ六時正ニ解散セントスル時ニ當リ共產黨員ノ煽動アリタルカ如ク右四名宿泊ノ大川旅館ヲ襲撃シタリ少數ノ巡捕ニテ手ニ負ヘス急ヲ公安局ニ報告局長現場ニ出張取締リタルモ混亂ノ内右邦人中二名行衛不明、二名負傷セリ行衛不明者ハ極力捜査中ニテ負傷者ハ善後督辦署ニ收容保護中ニテ其ノ姓名及負傷ノ程度ハ不明ニ付續報ヲ待テ御通知スヘシト述ヘ本件ノ發生ハ甚タ申譯ナシト陳謝シタル上本件ハ直ニ外交部ニ報告スルト同時ニ省政府及善後督辦署其ノ他ニ此ノ上共嚴重保護方ヲ電報セリト稱セリ本官ハ外交部ヨリ民衆運動取締方ノ訓令ニ接セルヤト反問セルニ二十一日省政府ヲ經テ自分ノ所ニモ通知アリタリト答ヘタルニ付本官ハ我方ノ要求ニ拘ラス事茲ニ至リタルハ遺憾ナル旨述ヘ本件ノ極メテ重大ナルコトヲ指摘シ置キタリ尙當面ノ措置トシテ本官ハ不取敢署長ニ署員一名及醫師ヲ附シ成都ニ急行セ

シムル筈

支、北平、南京へ轉電セリ

399 昭和11年8月25日 在南京須磨総領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件発生に関する行政院よりの諜報報告

南京 8月25日後発
本省 8月25日夜着

第六〇五號(大至急)

行政院ヨリノ極秘内報(今後ハ例ノ内報ト電報ス)ニ依レハ本廿五日賀國光ヨリ左ノ通り同院ニ來電アリタル由不取敢日本記者四名成都大川飯店滞在中本廿五日市民大會ニテ襲撃セラレ二名死亡、一名負傷、一名行衛不明トナレルカ又明日モ事故アル見込制止ニ努メ居ルモ尙鎮靜ニ至ラス支、北平、在支各總領事、香港、厦門へ轉電セリ

漢口ヨリ九江、宜昌、沙市、長沙(重慶脱?)へ轉電アリタシ
支ヨリ上海へ轉電アリタシ

400 昭和11年8月26日 在漢口三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件発生につき賀國光四川行營參謀長が遺憾表明について

漢口 8月26日前発
本省 8月26日夜着

第二二六號

重慶發本官宛電報

第四五號

大臣へ轉電アリタシ

第四八號

往電第四七號ニ關シ

當館署長一行乗用ノ飛行機ハ(小型四人乗)座席賣切レタル爲賀國光ニ面會(吳澤湘外出ノ爲)飛行機ノ出發時間ノ延期座席融通方ニ付嚴重申入ノ結果賀ノ斡旋ニ依リ融通出來署長、醫師、吳澤湘外一名同行出發セリ

賀ハ本官ニ對シ不幸ナル本件ノ發生ニ付深ク遺憾ノ意ヲ表シ且ツ成都ノ民衆運動ニ對スル同地官憲ノ取締手脱リアリタルモノノ如ク劉湘ハ犯人ノ逮捕責任者ノ處分ヲ爲スト稱

シ居ル趣ナリト内話シ痛ク恐縮シ居レリ尙本件突發當時大
川旅館ニ派遣シアリタル巡捕ハ取締ノ爲群衆ニ對シ發砲シ
軍隊出動セルモ間ニ合ハス二十五日朝又復騒擾アリ發砲解
散セシメタル始末ニテ成都ハ目下特別戒嚴布カレ居レリト
語レリ

前電ト共ニ支、北平、在支各總領事ニ轉電アリタシ
前電ト共ニ宜昌、沙市、長沙へ暗送セリ

401 昭和11年8月26日 在漢口三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件は地方的解決ではなく国民政府中央
と解決交渉を行うべき旨意見具申

漢口 8月26日前発
本省 8月26日夜着

第二二七號

重慶發本官宛電報

第四六號

大臣へ轉電アリタシ

第四九號

顧ミ爾今黨部、藍衣社等一切ノ抗日機關ノ活動ヲ即時停止
(場合ニ依リテハ解散)セシムル位ノ措置ニ出テラルルコト
モ一案ト存セラル
追テ此ノ際際ニ本官ノ執ルヘキ措置アラハ御電訓ヲ請フ
(右岩井ト協議済)
支、北平、南京へ轉電アリタシ

402 昭和11年8月26日 在漢口三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

領事館警察官ら成都派遣員の出発延期ならび
に事件被害者に関する情報について

漢口 8月26日後発
本省 8月26日夜着

第二二八號

重慶發本官宛電報

第四七號

大臣へ轉電アリタシ

第五一號

往電第四八號ニ關シ

往電第四七號ニ關シ

本件ニ關シテハ詳細ナル事情判明スルヲ俟テ本官ニ於テ被
害ノ程度ヲモ斟酌シ省政府當局ニ對シ

一犯人ノ逮捕處分

二責任者ノ嚴罰

三負傷者(若シ死者アリタルトキハ賠償金等)ノ醫療費慰藉

料

四將來ノ保障

等ニ付嚴重要求ヲ爲ス要アルハ勿論ナルカ元々本件ハ中央
政府カ成都總領事館再開ニ反對シ我方再三ノ警告アリタル
ニ拘ラス民衆ヲ使煽動シタル結果發生シタルモノニシテ
而モ正當ノ護照ヲ携ヘ居ルモノナレハ今更共產黨員ノ仕業
等ト藉口ノ餘地ナク從來ノ單ナル地方旅行者ノ偶發的事件
トハ全然趣ヲ異ニシ事態ハ極メテ重大ニシテ中央政府ニ於
テ直接責任ヲ負フヘキ性質ノモノト思料セラル就テハ本件
ハ此ノ際寧ロ中央交渉トシテ南京政府ヲ相手取り萬全ノ解
決ヲ計ルコト時宜ニ適スルヤニ認メラル尙將來保障ノ點ニ
付テハ最低限度成都ヲ商埠地トシテ開放セシムルハ勿論本
件カ一二支那側最近ノ抗日侮日的民衆指導ノ結果ナルニモ

出發時刻遅延並ニ天候不良ニ依リ飛行不能ニ陥レル爲署長
一行明二十六日ニ出發ヲ延期セリ
尙賀國光ヨリノ電話ニ依レハ公報ニハアラサルモ行衛不明
ハ渡邊、深川、負傷者ハ田中、瀬戸但シ生命ニ別狀ナシト
ノコトナリ關係ノ向ヘ御傳ヘ請フ
支、北平、在支各總領事へ轉電アリタシ
宜昌、沙市、長沙へ暗送セリ

403 昭和11年8月26日 在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件解決交渉の方針につき大使館より青
島滞在中の川越大使宛訓請

上海 8月26日後発
本省 8月26日夜着

第六七七號(極秘)

本使發青島電報

第三六號

大使へ左ノ通

重慶發大臣宛電報第四七號ニ關シ

本件ハ當地在住新聞記者等被害ヲ蒙リタル關係上相當「センセーション」ヲ起シ居ル處其ノ被害ノ程度及支那側ノ措置振等ハ更ニ確メノ要アル處行衛不明者ハ恐ラク殺害サレタルモノト察セラルルニ付其ノ場合ニ於ケル我方ノ對策左ノ通り具申ス(陸海軍武官ト打合濟)

一、本件暴動ハ中央ニ於テ我領事館再開ヲ阻止スル爲民間ノ言論及運動ヲ指導セルカ又ハ少クトモ之カ抑制ヲ怠リタル態度ノ餘勢ニ驅ラレタルモノト思考セラルルヲ以テ本件ヲ契機トシテ最近各地方ニ擡頭セル排日風潮ヲ徹底的ニ禁絶セシムルコト兩國關係ノ調整上極メテ必要ト存セラルルニ付本件解決ハ中央ヲ相手トシテ之ヲ行フコトト致度シ(成都、重慶地方ノ現狀ニ鑑ミ本件地方的ノ解決ハ不可能ニシテ且ツ前記ノ目的上不利ナリト存ス)

二、從テ本件解決ノ條件トシテハ將來ニ對スル保障トシテ(一)第一ニ中央ヲシテ全國ニ亘リ排(日)禁止ヲ徹底的ニ實行セシムルコト必要ニシテ之カ爲ニハ例ヘハ

- (イ) 中央ヨリ邦交敦睦令ヲ確認スル排日禁止ノ明令ヲ出サシメ之ヲ各地方ニ徹底セシムヘキ具体的方法ヲ講セシムル(各官憲及各種團體ニ對スル命令通達ノ外

(ロ) 賠償ニ付テモ前項ニ準シ其ノ額ヲ決定スルコト

右貴大使ノ御意嚮ニ依リ然ルヘク御訂正ノ上至急本省へ御稟申願度シ

大臣、在支各總領事、北平、厦門、重慶へ轉電セリ

404 昭和11年8月27日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件の善後措置に関する張群との会談内

容報告

南京 8月27日前発
本省 8月27日前着

第六一〇號

往電第六〇九號ニ關シ

本官本二十六日廬山ヨリ歸寧セル張群ニ面會シタル處ニ張ヨリ先ツ狼狽氣味ニテ口ヲ切り昨夜廬山ニテ成都ニ於ケル不祥事件ヲ承知シ日支國交調整ニ乗出サントスル矢先返ス々々モ不幸ナル事件ニテ先ツ以テ自分ノ深厚ナル遺憾ノ意ヲ述フル次第ナリト前提シ支那側ノ消息モ取揃ハサルカ成都公安局督察署長以下官民相當數ノ死傷モア

新聞紙、「ポスター」等ニ依リ相當ノ期間之ヲ掲載シ一般民衆ヲシテ周知セシム又中央黨部ニ於テモ政府ニ準シ適宜之カ周知方處置セシムルコト必要ナルヘシ)

(ロ) 一切ノ排日團體ノ解散

(ハ) 排日的言論ノ取締及

(ニ) 排日教科書ノ改訂(本件ニ付テハ我方ヨリ改訂具體案ヲ指示スルノ可否ニ付攻究ノ要アルヘシ)

等具體的事項ノ實行ヲ要求スル外

(三) 成都領事館設置ニ關スル我方既得權益ヲ確認セシムルコト必要ナルヘシ(支那側ニ於テ自發的ニ成都ヲ開埠地トセンコトヲ希望條項トシテ提出スルモ可ナリ)

三、又事件自体ノ解決條項タル責任者ノ謝罪、處罰及賠償ニ付テハ左ノ點ヲ考量スルコト

(一) 謝罪ハ地方官憲ノ外外交部長ノ陳謝ヲ要求スルコト(死亡者ナク單ニ負傷ノ場合ニハ地方官憲ノ謝罪ニ止ムルコト)

(二) 處罰ノ範圍ハ地方官憲ニ止メ死亡ノ場合ト負傷ノ場合トニ依リ適宜其ノ程度及範圍ヲ定ムルコト

リタル程ニテ二十五日モ大混雜ナリシ由ニモアリ又背後ニ共產黨ノ如キ政府反對分子モ活躍セルヤノ疑モアリ真相捕捉シ雖キニ付明後二十八日飛行機ニテ情報司科長邵毓麟、亞洲司專員楊開甲ヲ派遣スルコトトシタルニ付何レ其ノ報告ヲ俟テ委細御話シ度シト言ヘルニ對シ

三、本官ヨリ真相ハ勿論事茲ニ至リタル經過ニ付テモ日本側ニ於テモ取調ノ上話合ヒ度キカ我方累次ノ申入殊ニ本官ヨリ本月二十日徐謨ニ又二十二日陳介ニ更ニ二十四日再ヒ陳介ニ對シ地方官憲ニ對シ此ノ種事件ノ發生阻止ノ訓令方篤ト申入アルニ拘ラス事茲ニ至リタルハ眞ニ重大ナル事件ナルカ今差向キ右ノ點ヲ改メテ申入ル次第ナリトテ

(四) 重慶ヨリ領事館員成都ニ赴ク處之ニ對シテハ充分ノ保護ヲ加フルト同時ニ調査上萬般ノ便宜供與方申送ラレ度シ

(五) 此ノ種不祥事件カ他地方ニ蔓延スル惧アルハ現ニ約一週間前長沙ニ於テ結果ハ幸ヒ少ナリシモ日本陸軍武官居宅ニ爆彈ヲ投シタル者アリシ事件ニ見テモ明カナルニ付中央政府ヨリモ此ノ種事件ノ取締方速急手配アリ

度ク

(二)本事件ノ善後處置等トハ全然離レテ先ツ本件真相調査其ノ他ノ爲必要ニモアリ岩井ハ豫定通り成都ニ赴カシムルニ付不法ナル事實上ノ妨害ヲ爲サシメサルト共ニ充分ノ便宜供與アリ度シト言ヘリ

三張ハ右(一)ハ早速手配スヘク(二)ニ付テハ既ニ本日ノ特別行政院會議ニ於テ必要ナル手配方法決定シ右ニ關シ聲明モ發スル手筈ナリ(同盟電報御參照)又(三)ハ成程御尤ナルカ自分カ湖北省主席タリシ際鄭州ニ佐々木領事赴任ニ先立チ漢口ヨリ人ヲ派シテ事情取調ノ上領事赴任ノ爲便宜ヲ取計ヒタル經驗モアリ理論ハ別トシ岩井氏ノ赴任ニ付テハ同様ノ手配ヲ爲ス要アルノミナラス

同地ノ形勢未タ見据付カサル譯故猶豫アリ度シト逃ケントセルニ付本官ヨリ岩井ヲ如何ナル時期ニ成都ニ赴カシムヘキヤハ日本側トシテモ同地方ノ情勢ヲ見計ヒタル上決定スヘキハ勿論ニ付兎モ角岩井ヲ赴任セシムル原則ヲ認メ置カレ度シト詰寄り押問答ノ末張ハ右原則ハ承諾スルコトトシ何レ其ノ積リニテ手配ヲ終リタル上申上クル

漢口 8月27日夜發
本省 8月27日夜着

第二三三號(大至急)

重慶發本官宛電報

第五〇號

大臣へ轉電アリタシ

第五四號

往電第四七號ニ關シ

本廿七日朝賀國光ヨリ電話アリ本官直ニ同人ヲ往訪シタルニ賀ハ各方面ノ情報ヲ綜合シタルモノナリト前置シ事件當時ノ狀況其ノ他ニ關シ大要左ノ通り内話セリ

廿四日午前小城公園ニ反對設領民衆大會開催セラレタルカ午後ハ游街トテハナク幾組カノ宣傳隊各方面ニ練廻リ居リタルモ夕刻トナリ大川旅館ヲ襲撃シタルモノナル處當日邦人四氏ノ内渡邊、深川、田中ノ三氏ハ街ヲ見物シ午後早く歸館シ居リ瀨戸ハ商用ニ出掛ケタ方殆ト暴徒襲撃ノ直前歸館シ不幸遭難セルモノナリ當時公安局ヨリハ約十名ノ巡警ヲ旅館ニ派遣保護シ居リタル次第ナルカ巡警等ハ暴徒ニ對シ邦人四名ヲ督辦公署ニ保護連行スル爲退散ヲ求メタルモ

迄實行ハ待タレ度シト嘆願的ニ答ヘタル上此ノコトハ絶對外部ニ嚴秘ニ附サレ度シト附ケ加ヘタリ

四、尙張ハ本件ノ爲折角ノ國交調整ヲ無ニシテハ双方遺憾ニ付大局的見地ヨリ新聞等ニ於テ餘リ本件ヲ大キク取扱ハサル様注意アリ度シト言ヘルニ付本官ハ國交調整ト云フモ何事モ手ヲ着ケサル爲此ノ種ノ事件トモナリシ次第ナルト共ニ本件其ノモノカ支那側累次ノ言明ニ拘ラス排日氣運蔓延シ居ル證據ナルニモ鑑ミ夫レ自体重要事件故申入ノ次第ハアルモ不必要ナル書振ハ兎モ角本事件ノ日本輿論ニ對スル反響ハ支那側モ大ニ注意ノ要アリト答ヘ置キタリ

支、北平、在支各總領事、厦門、重慶へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

405 昭和11年8月27日 在漢口三浦總領事ヨリ
有田外務大臣宛(電報)

成都事件發生當時の状況に関する賀國光の説
明について

暴徒側ハイツカナ之ヲ聞入レス次カラ次ヘト各方面ヨリ押寄せ來ル暴徒ハ既ニ邦人ニ向ツテ暴行ヲ開始シタル爲四氏ハ旅館裏ノ塀ヲ乗越シ避難セリ塀ヲ乗越エテヨリハ四氏バラタ々ニナリタルモノノ如ク中一名ハ巡警ニ於テ辛フシテ附近ノ公安局分局ニ保護收容シタルカ他ノ三名ハ一時行先不明トナリタリ時ヲ移サス公安局長自身現場ニ出張負傷者一名ヲ救出病院ニ收容他ノ二名モ其ノ後屍體トナリテ街上ニ於テ發見セラレタル様ノ次第ニシテ寔ニ御氣ノ毒ニ堪ヘス

當時支那側ニテモ混亂中巡警一名死亡、數名負傷民衆亦十數名ノ死傷者ヲ出セリ尙暴徒中ニハ學生モ混リ居リタルモ是等ハ少數ノ不逞分子又ハ共產分子ノ煽動ニ乘リタル迄ニテ彼等ニハ左シテ罪モナキ次第ナリ

當局ニテハ既ニ首魁數名ヲ逮捕昨二十六日中二名ヲ銃殺ニ附シタル外引續キ共謀者ノ檢舉ニ努メ居レルモ之カ爲翌二十五日モ騷擾アリ二十六日ニ至リ漸ク鎮靜ニ歸シタルモ當時支那側治安當局トシテハ此ノ種民衆運動アル場合ニハ當然軍隊ヲ派遣警備セシムヘキニ拘ラス單ニ巡警ノ警戒ニノミ任シ居リタルハ重大ナル手落ニシテ後馳ニ軍隊力出動シ

タルモ現場ニ間ニ合ハサリシハ返ス々々モ遺憾ナリ
劉主席ニ於テハ本件ニ付深く憂慮シ居リ死者、負傷者ニ對シテ慰藉ヲ爲スハ勿論ノコト犯人ノ處分、責任者ノ處罰等誠意ヲ披瀝シ居リ又本件ハ毫モ官憲側トハ關係ナキ次第故日本側ノ憤激ハ左コソト御察シスルモ成ルヘク穩便ニ願度シ云々

右ニ對シ本官ハ單ニ支那側ノ言分トシテ聞クニ止メ置ケリ支、在支各總領事、北平、厦門ヘ轉電アリタシ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

宜昌、沙市、長沙ヘ暗送セリ

406 昭和11年8月28日 在漢口三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件邦人被害者に関する現地出張領事館員の報告について

漢口 8月28日後発
本省 8月28日夜着

第二三四號

重慶發本官宛電報

第五一號

大臣ヘ轉電アリタシ

第五五號

成都出張ノ志波署長ヨリ二十七日來電大要左ノ通

二十四日七時大川旅館ハ岩井入蓉反對ノ暴民數千名ニ襲撃セラレ瀨戸、田中ハ全身負傷シ督辦署ニ收容セラレ經過良好ナリ華陽縣政府埋屍院ニ引取ナキ屍体四箇アリトノコトニテ本二十四日立會檢視ノ結果渡邊、深川ナルコト判明セル處兩氏ハ慘死ヲ遂ケ屍体ハ既ニ腐爛シ居レリ云々

尙吳澤湘ヨリモ兩氏ノ死亡ヲ電報シ來ルト共ニ本官ニ對シ遺憾ノ意ヲ表シ遺族ニ對シ深甚ナル弔意傳達方依頼越セリ

支、北平、在支各總領事、厦門ヘ轉電アリタシ

宜昌、長沙、沙市ヘ暗送セリ

407 昭和11年8月29日 在漢口三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都に到着した糟谷重慶領事よりの報告電報について

第六一八號

國民政府ハ昨二十九日重ネテ左記ノ如キ敦睦令ヲ發シタル趣ニテ今三十日ノ各紙ニ相當大文字ニテ之ヲ掲載セシメ居レリ

查スルニ我國人民各友邦ニ對シ誼ヲ厚フシ排斥及惡感挑發ノ言論行爲アルヘカラサル次第ハ夙ニ明令發濟ナルカ最近四川成都ニ於テ人民ノ暴動ニ依リ外人毆撃ノ事件發生セルハ殊ニ政府睦隣ノ趣旨ニ反ス、主管機關ニ對シ迅速適當處理方命スルト共ニ茲ニ重ネテ前令ヲ申フ切實遵守シ違背スルコト勿レ茲ニ令ス(全譯)

支、在支各總領事、厦門、重慶ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

409 昭和11年8月30日 在上海若杉總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件發生に対するわが方居留民の激高について

上海 8月30日後発
本省 8月30日後着

第二三七號

成都糟谷領事來電

本二十八日松村書記官ト共ニ成都着戒嚴令下市民平靜ナルモ尙無氣味ナル暗流ヲ感知セラル死亡者渡邊、深川ナルコトヲ確認セリ出來得レハ明日假葬ノ筈負傷者田中ハ右耳其ノ他打撲傷、瀨戸ハ顔面其ノ他ニ切傷打撲傷ヲ受ケ居ルモ豫想ヨリハ輕傷ニテ目下ノ所ニテハ數日中ニ漢口ヘ歸還セシメ得ル見込

本官等ハ兩三日調査ノ上結果ノ概要重慶ヨリ電報ス

本電重慶及例ノ通り轉電アリタシ

408 昭和11年8月30日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件發生に対して中国政府が同国民へ邦交敦睦令の勵行を命令について

南京 8月30日後発
本省 8月30日後着

第三六三號

① 今回ノ成都事件ハ被害者中三名迄上海在留ノ者ニモアリ當地居留民ニ對シ多大ノ衝動ヲ與ヘ蒼生事件犯人ノ未逮捕、中山事件判決ノ遷延ト相俟テ居留民ハ極度ニ激昂シ居リ廿六日各路聯合會緊急常任委員會開催セラレ席上當地若ハ全支ノ居留民大會開催說等強硬意見モ出テタルカ同會幹事ハ事前ニ當館ト連絡シ當方ノ指示ヲ受ケ居リタル關係モアリ詳細ノ事情判明セサル此ノ際詳報到來迄靜觀スヘシト穩健ナル決議ヲ爲シタルカ當地新聞記者團體タル新聞通信聯盟及申江俱樂部ハ被害者カ新聞人ナル關係上何レモ強硬ナル決議ヲ爲シ又當市邦字紙モ本件記事ヲ連日大々的ニ報道シ居レル處報道振ハ居留民大會開催ニ付居留民現實ノ氣持ヨリ多少行過キ居ル傾向アリ廿七日夜被害者中二名殺害セラレタル旨ノ詳報傳ハルヤ廿八日早曉邦人ニシテ激越煽動的口調ニテ居留民大會開催ノ必要ヲ強調セル「ピラ」ヲ市内數箇所ニ貼出シタル者アルヲ以テ當館警察ハ直ニ之ヲ剥取りタリ

② 對支那側「ジェスチュア」トシテ居留民ノ氣持ヲ適當ニ表現スルコトハ寧ロ歡迎スヘキモ居留民大會開催ノ如キハ群

410

昭和11年8月31日

在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件解決条件に関するわが方新聞報道取

締方意見具申

上海 8月31日後発
本省 8月31日後着

第六九六號(大至急、極秘)

往電第六七七號(本使發青島宛電報第三二六號)ニ關シ成都事件ニ關シテハ支那側ハ頗ル狼狽シ如何ナル要求ヲ受クヘキヤ極度ニ心配シ居ルニ付我方トシテハ此ノ際寧ロ要求條件ニ關シ一切沈黙ヲ守リテ支那側ニ無氣味ナル感ヲ懷カシメ置クコト本件解決上緊要ナリト存セラル依テ當方トシテハ新聞等ニ對シテハ本件ヲ我方カ頗ル重大視シ居ル旨ヲ強調シ且支那側ノ糊塗の宣傳ニ反駁ヲ加ヘ其ノ無誠意ヲ責メシムルニ止メ(是等記事ノ結果居留民カ無用ニ激昂セサル様注意シ居ルハ勿論ノ儀ナリ)本件ニ付我方ノ要求スヘキ解決條件ノ内容等ハ全然新聞ニ掲載セシメサル様指導シ居レリ

三 中国における邦人遭難事件

然ルニ十六日發同盟ヲ以テ冒頭往電稟請ノ解決條件ノ内容

衆心理ニ支配セラレ易ク派生的現象トシテ越軌行動ヲ招來スル惧アルコト上海事件ニ徴スルモ明カナルヲ以テ少クトモ此ノ際之ヲ許ササル方針ニシテ居留民ノ氣持ヲ其處迄持ツテ行カサル様充分軍側トモ聯絡ノ上民團、各路聯合會等ヲ指導シ居リ民團長トモ協議ノ上二十八日午後在留民各方面ヲ代表スル市委會ヲ當館ニ招集シタル處席上種々強硬意見出テタルモ本官ヨリ本件ニ關スル正確ナル情報及我方官憲ノ措置振等ヲ説明スルト共ニ居留民大會ノ如キハ派生的事件發生ノ惧アルノミナラス一般民心ヲ刺戟シ左ナキタニ不景氣ニ惱マサレ居ル居留民營業ニ打撃ヲ與フヘク將又折角我方官憲ノ執ララルル嚴正ナル態度ニ惡影響ヲ及ホス結果トナルヘキヲ以テ少クトモ現在ノ所ハ之ヲ許可セサル方針ナルカ正當ノ手續方法ニ依リ表示セラルル居留民ノ感情及希望ハ之ヲ阻止セサルノミナラス歡迎スヘキ旨指示ヲ與ヘタルカ右ノ外商工會議所等各方面何レモ當館ノ意嚮ヲ諒トシ目下ノ所自重シ居レリ當地情勢御參考迄

支ヘ轉報シ在支各總領事、厦門ヘ轉電セリ

411

昭和11年9月2日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都總領事館再開は成都事件と切り離して解決すべき旨および成都事件の地方的解決には
応じない旨張群へ回答について

南京 9月2日前発
本省 9月2日前着

第六二九號

往電第六一〇號ニ關シ

本一日張群ト左ノ通り會談セリ

一、張ハ先ツ本事件ハ重大ニシテ自然支那側ノ責任モ鮮カラサルニ付許大使ヨリモ閣下ニ對シ又本日高司令ヲ川越大使ノ許ニ派シ夫々事件發生ノ遺憾ナル旨ヲ告クルト共ニ之カ解決ハ日支國交ノ調整ニ至大ノ影響ヲ及ホスヘキニ付日本側ノ要求ハ正當ニシテ合理的ノモノトセラルル様申入レシメタルカ貴官ヨリモ更ニ此ノ趣旨ヲ申送ラレ度シトテ特ニ廣西問題ノ解決ノ困難ナル所以ハ李、白等カ今尙抗日ノ宣傳ニ努メ殊ニ本事件ニ關聯シ中央政府ヲ窮地ニ陷レントスル下心明瞭ナル際ナレハ特ニ前述ノ趣旨ニ依リ本件ニ關スル要求ヲ充分加減アリ度シト述ヘタリ

二、右ニ對シ本官ヨリ本件ハ重大ナルコト御説ノ通ナルカ一言ニシテ言ヘハ言語道斷ニシテ曾テ例ヲ見サル深刻ナル事件故之ニ依リ日本朝野ノ受ケタル衝動ハ絶大ナリ今御話ノ合理的且正當トハ如何ナルコトヲ期待シ居ラルルヤ知レサレ共南京政府モ餘程ノ決意ヲ必要トス然ルニ貴下ハ二十六日本官ニ對シ岩井ノ赴成ヲ原則上認メタルニ（既ニ領事館設置ヲ認メタルコトハ鄭州ノ場合ト同シク我方ニ於テハ開埠地同様ニ認メ居ル次第ナリ）拘ラスニ

リ大体貴部長ハ我方ニ確認ヲ與ヘタルモノト解シ居タルニ付今懸案トハ爲シ難シト頑張レルニ

張ハ然ラハ本件ハ技術上ノコトモアルニ付徐謨次長トモ今少シク話見ラレ度シト言ヘルニ對シ本官ヨリ徐トハ八月二十日議論ヲ盡シタルニ付（往電第五八六號）本件ノ討議ナラハ此ノ上御免蒙リ度シト言ヘルニ張ハ明二日迄ニ更ニ相談シ徐謨ヨリ結末ヲ申上クルコトト致スヘシト申出テタルニ付確認ノ申出ヲ受クルコトトシテ承諾シ置キタリ

四、張ヨリ御話モアリ冒頭往電第六一〇號ノ二及敦睦令（往電第六一八號）ヲ發布シタル次第モアリ且前項ノ確認問題モ決定スルニ於テハ他ノ點ハ是非共地方的ニ解決致度ク御見込如何ト言ヘルニ付本官ヨリ日本ハ客年蔣介石ノ新政府成立以來國交調整ノ宣言ニ信頼シ角田事件、中山事件、萱生事件等ヲ始メ貴國官民ノ反日的表示ハ貴國軍務當局カ急キツアル所謂對日防備計畫等ト併セ重大ナル事態ナリシカ今日迄隱忍一意自重國交ノ好轉ニ努力シ來リタルニ拘ラス今回ノ不祥事件ヲ見タル次第ナレハ言ハハ全支ニ澎湃セル官民排日思想ノ勃發ヲ見タリトモ言

十九日大毎村上特派員ニ對シ成都領事館再開ハ國民政府ハ今以テ頑強ニ拒否スル所ナリト言明セラレタル趣報セラレ居リ若シ右言明カ事實トセハ貴下ノ本事件ニ關スル認識ハ疑ハサルヲ得失望ニ堪ヘスト言ヘルニ

三、張ハ右言明ノ次第ハ否定セス内密ニ貴官トノ間ニ原則上岩井ノ赴成ヲ認メツツ話ヲ進メ度キ意嚮ニハ變リナキモ本件ハ成都事件ト同時ニ解決スル方理ノ當然ナリト思考シ居ル迄ナリト答ヘタルニ付本官ハ色ヲ爲シ一旦岩井ノ赴成ヲ原則的トハ言ヘ認メ置キ乍ラ本事件話合ト同時ニ決着セシメントスルカ如キハ無誠意モ甚タシク又元來八月二十四日本官ヨリ理ヲ盡シタル覺書ヲモ手交シテ申述ヘタル通り（往電第五九六號）支那側ノ岩井赴成ノ拒否其ノモノカ支那側ノ非友誼的行爲ニシテ先ツ之ヲ本件ニ關スル本格的話合ト切離シテ解決シ置クニアラサレハ支那側ハ本件ヲ更ニ重大化セシメントスルモノトモ見ラルヘシト（北平發合第三〇五號）借家解除ノ不當等ヲモ改メテ申入レ置キタリ）強ク詰寄り押問答ヲ重ネタル結果張ハ遂ニ折レ然ラハ事件解決ト切離シテ貴官トノ間ノ懸案ト爲スヘシト言ヘルニ依リ本官ヨリ冒頭往電三ノ言明ニ依

フヘキ事件ニシテ中央ニ對スル以外處理シ得サル問題ナリト思考スル旨述ヘタルニ張ハ痛ク憂色ヲ見セ居タリ

四、張ハ別レニ臨ミ本件ニ付廣田總理ヨリ上奏ノ次第アリタル趣ナルカ事實ナリヤト問ヘルニ依リ本官ヨリ勿論事態ノ重要性ニ鑑ミ事實ナルヘク日本朝野ノ關心ハ松村書記官等我方報告ノ出揃フヲ待チテ更ニ重大化スヘシト述ヘタルニ張ハ心配氣ニ貴官ノ申サレタル言語道斷トハ如何ナル意味カト繰返シ尋ネタルニ依リ本件ハ敦睦令ヲ發布シ政府カ國交調整ヲ叫ヒ居ル間ニハ起リ得ヘカラサル重大事件ナリトノ意味ニシテ此ノ點ニ於テハ南京、濟南兩事件以上ナリトノ意味ナリト答ヘタルニ張ハ成程日本ノ忿懣ハ左ルコト乍ラ之ニ依リ南京政府ヲ自暴自棄ニ陥ラシムルカ如キ過大ノ要求ハ是非共避ケラレ度シト繰返シ會談全般ニ亘リ張ハ狼狽憂色ニ滿チ居タリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支、北平、在支各總領事、厦門、重慶ヘ轉電セリ

412 昭和11年9月2日 在中国川越大使より 有田外務大臣宛（電報）

成都事件に関する重慶領事の現地調査報告

上海 9月2日前発
本省 9月2日前着

第七〇一號(至急)
重慶發本官宛電報
第八號

大臣へ轉電アリタシ

第五七號

在成都糟谷、松村ヨリ

糟谷及松村ニ於テ二十八日着蓉以來負傷者ノ供述、現場ノ踏査等ニ基キ調査セル今次事件ノ概要左ノ通

(一)被害者一行四名ハ重慶領事館發行ノ護照ヲ携帶シ客月二十一日自動車ニテ重慶發二十三日午後三時半頃成都著同地驛馬街大川旅館ニ投宿同夜及翌二十四日午前二時リ渡邊、深川、田中ノ三名一組ト成リ瀬戸ハ單獨ニテ夫々市中見物及所用ヲ辦シ同日午後二時過相前後シテ歸宿セルカ既ニ二十三日夜ヨリ我總領事館設置反對及岩井入蓉阻止等ノ標語到ル處ニ貼付セラレ居タル趣ナリ(支那側ヨリハ宿舍ニ護衛トシテ軍警五名以上ヲ附シ且二十四日外

出ニ際シテハ公安局員一名夫々同伴セシメタル由)

(二)同日午後三時頃ヨリ學生、市民等十四名旅館ニ入込ミ岩井入蓉反對等ノ傳單、宣傳文等ヲ貼付撒布シ漸次其ノ數ヲ増シ演說等ヲ行ヒ氣勢ヲ揚ケ居タルカ午後五時ニ至リ同旅館階下ノ破壞ヲ開始シ(當時公安局員等ニ於テ制止セシモ少人數且武器ヲ携帶セサル爲何等效果ナカリシカ如シ)六時過遂ニ一行ノ宿泊セル三階ニ押寄せ扉ヲ破壊シテ器物等ヲ投擲暴行シ同四十分頃一時三階ヨリ引揚ケタルモ其ノ間階下及外部ニ於ケル暴民ハ刻々増加シテ旅館及其ノ附近街路ニ充滿シ其ノ數一萬ヲ算スルニ至リ午後七時頃再ヒ一行ノ室内ニ侵入毆打、器物ノ投擲、家具ノ破壞、一行ノ所持品掠奪等凡ユル暴行ヲ加ヘ(當時公安局員四五名一行ノ周圍ニアリタルモ無力ニシテ何等ノ用ヲ爲サス)遂ニ瀬戸及田中ハ離々ニ暴民ノ爲旅館ヨリ街上ニ引出サレ(田中ハ電線ニテ後手ニ縛セラル)途中絶エス學生、無賴漢等ヨリ蹴ル毆ル等ノ暴行ヲ受ケツツ市中ヲ引廻サレ瀬戸ハ途中公安局員ニ救出セラレ午後九時頃公安局ヲ經テ善後督辦公署ニ送ラレ軍醫ノ手當ヲ受ケ一方田中モ棍棒ニテ右耳ヲ強打セラレ路上ニ昏倒シ居タ

ルヲ公安局員ニ救出セラレ先ツ加奈陀人經營ノ四聖病院ニ送ラレ

(三)他面午後十一時頃督辦公署ニ收容セラレタリ負傷ノ程度ハ幸ヒ案外輕ク瀬戸ハ全治迄二週間、田中ハ一箇月ノ見込ナリ尙暴徒中ニハ中學生、小學生等多數混入シ居タル模様ナリ

(四)屍体檢案ノ結果渡邊ノ致命傷ハ上下顎骨折折ニ於ケル腦震盪及出血、深川ノ致命傷ハ頭部打撲ノ腦震盪ナリ

(五)右大川旅館ハ暴民ニ依リ完全ニ破壊シ盡サレ一小部分ニ放火セラレタルモ直ニ消火セリ右ト相前後シテ市内三箇所ノ日貨取扱商店モ襲撃セラレタリ

(六)我成都總領事館廳舍ハ番人ノ談ニ依レハ二十三日公安局員同廳舍内ニ來リ同人ニ對シ二十四日ニハ反對設領岩井入蓉阻止市民大會及遊行アルニ付同日ハ警戒兵ヲ出スヘ

キカ殊ニ注意スヘキ旨ヲ告ケ去リ二十四日警察大隊長二十一名ノ巡警ヲ帶同門ヲ閉シ構内ヲ警戒シ外部周圍ニモ多數ノ軍警配置セラレタルカ同日午前九時頃小城公園ニ於テ市民大會ヲ開催シタル後游行ニ移リ十一時頃約五、六百名ノ群衆押寄せタルモ大隊長ヨリ岩井ノ來ラサルヲ説明押問答ノ末引揚ケタル趣ナリ(右番人ノ言ナルコトハ絶對ニ外部ニ發表セサル様致度シ)

(七)金品直接被害渡邊約千八百弗、深川約八百弗、田中約八百弗、瀬戸約六千五百弗(商取引其ノ他ノ間接損害相當多額ノ見込)

本電適宜陸海軍ニモ通報アリタシ
(支ヨリ)北平、在支各總領事、厦門へ轉電アリタシ
宜昌、長沙、沙市へ暗送セリ

413 昭和11年9月2日 在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件に関する中国側地方当局の説明振りについて

第七〇二號(至急)

重慶發本使宛電報

第九號

大臣へ轉電アリタシ

第五八號

在成都糟谷、松村ヨリ

往電第八號ニ關シ

三十日糟谷及松村ニ於テ支那側責任者タル公安局長、警備司令成都市長及吳澤湘ヲ午後四時ヨリ約三時間ニ亘リ訊問シタル處支那側ノ答辯中重ナル點左ノ通

(一)吳澤湘及賀國光ノ糟谷ニ對スル言明及南京ニ於ケル例ノ情報ニ拘ラス八月廿三日及廿四日ニハ何等市民大會等ノ催ナカリシ旨ヲ繰返シ主張セリ(此ノ點ニ付テハ前電ノ如ク總領事館番人ノ言モアリ其ノ他本官等接觸ノ支那官吏中不用意ノ裡ニ大會開催セラレタルヤノ口吻ヲ洩ラセル者モアリ支那側ノ言明ハ全然虛報ト認メラルルモ此ノ點確證ナシ)

(二)共產黨ノ背景アリト主張シ居ルモ單ニ推測ニ止マリ支那側ニ於テモ何等ノ確證ナシ

(三)支那側ノ警戒振ニ關シテハ廿三日及廿四日午前トモ市中平穩ニシテ特ニ警戒ノ要ヲ認メス一行ニ對シテハ宿舍ニ護衛トシテ公安局員約十五名、警備司令部兵士約十名ヲ派遣シ事件發生直後公安局員約四十名ヲ増加シ(何レモ銃器ヲ携帯セス)公安局長及警備司令ハ現場ニ赴キ暴徒ノ彈壓、邦人援出ニ努メ更ニ事件ノ擴大ニ伴ヒ現場及其ノ附近ニ公安局員約百五十名(武裝セス)、警備司令部兵士約二百名(武裝ス)全市ヲ通シ約千名ヲ出動セシメタリト稱ス尙何故ニ發砲セサリシヤトノ質問ニ對シテハ一般民衆、軍警及邦人ヲ傷害センコトヲ懼レタリトテ一發モ發砲セル事實ナキコトヲ確認セリ

(四)加害者ハ二十五日二名逮捕取調ノ上銃殺シ(口供書送付越スコトニ打合濟)尙且下六名逮捕取調中ト稱ス

(五)暴徒ノ數ハ彌次馬ヲ含メ約一萬但シ其ノ種類ハ天候トノ關係ニテ識別不可能ナリキト稱ス(遭難者ハ多數ノ中、小學生ヲ現認セリト)

(六)國民政府ノ民衆運動取締方訓令ニ付テハ吳澤湘ハ廿一日

接受即時省及地方政府ニ傳達セリト言明シ公安局長等ハ右訓令ニ付テハ何等承知セス唯廿四日劉湘ヨリ民衆取締方訓令アリタリト稱ス

(七)責任者ノ處分等ハ何等考慮シ居ラス責任ノ有無ハ中央ノ決定ニ俟ツト稱ス

(八)事件前反日會、排日運動等ノ有無ニ關シ質シタルニ何等スルモノナク領事館再開、岩井入蓉阻止反對「ピラ」ノ貼付等モ極力取締レリト言ヒ且標語中ニハ私貨取締ニ關スル標語最多シト稱ス(廿六日赴蓉ノ當館員ノ現認セル所ニ依レハ廿七日迄ハ全市ニ「ピラ」充滿シ私貨ノ標語ノ如キ殆ト見當ラス廿八日ニ至リ漸ク全部ヲ取去リタル趣ナリ)

(九)支那側ノ負傷者ハ官憲側ハ公安局員死亡一、負傷者軍警併セテ約廿五、六名、暴徒中ニモ死亡者アリシナランモ關係者ニ於テ隱匿シ一個モ殘留屍體ナシト稱ス

(十)戒嚴令施行ハ廿四日午後八時頃ニシテ鎮靜セルハ廿五日午前六時頃ト稱ス

(出)今次事件ハ直接日本人ヲ目的トセルニアラス日本人ハ暴動ノ波及ニ依リ誤殺セラレタルモノナリト稱シ其ノ理由

トシテ支那側ニモ死傷者アリタル點並ニ支那店舗モ襲撃セラレタル事實ヲ強辯ス(右支那死傷者中軍警側ハ暴動鎮壓ノ爲、暴民側ハ同志討ノ爲ナルコトハ支那側ニ於テモ確認シ居レリ從テ支那側ニ死傷者アリタル事實ハ毫モ理由トナラス又支那商店襲撃ノ理由ハ私貨ヲ販賣セル爲ニテ日貨取扱店タルカ故ニアラスト主張シ大川旅館ノ破壊ニ付テハ説明ニ窮セリ)

本電適宜陸海軍ニモ通報アリタシ

(支ヨリ)北平、在支各總領事、厦門へ轉電アリタシ

宜昌、沙市、長沙へ暗送セリ

414 昭和11年9月2日 在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件における中国側責任を立証する事実
關係について

第七〇三號(至急)

重慶發本使宛電報

第一〇號

大臣へ轉電アリタシ

第五九號

在成都糟谷、松村ヨリ

往電第五八號ニ關シ

今次事件カ支那側中央及地方官憲ノ排日運動ノ默認乃至ハ取締不十分ナルニ基キ特ニ我方成都總領事館再開問題ニ直接ノ關聯ヲ有スルハ明カニシテ事件發生前ニ於ケル成都支那側官憲ノ態度ハ廿一日中央ヨリノ訓令アリタルニ拘ラス成都全市我領事館再開反對、岩井入蓉阻止ノ宣傳文標語等ヲ放任シタル形跡アルニ依リテモ窺知シ得ヘク本官等着蓉以來陽ニ各般ノ便宜ヲ供與スル體ヲ示シツツ陰ニ名ヲ保護ニ藉リテ軟禁狀態ニ置キ我方負傷者一名ノ狹範圍ノ經驗ヲ除キ何等ノ「ウイットネス」ナキヲ奇貨トシ極力事實ノ隱匿ニ努メ單ナル偶發的暴動ニシテ豫見シ得サリシモノノ如ク裝ヒ毫モ誠意ナキハ冒頭往電支那側當局者ノ答辯振ニ觀ルモ明カナル處少クトモ左記事實ハ本事件ニ關スル支那側ノ責任ヲ決定スルニ充分ナリト思考セラル

(一)護照ノ發給

尙黨部ト今次事件トノ關係ニ付テハ探查ニ努メタルモ遺憾乍ラ何等ノ手懸ヲ得ス

本電適宜陸海軍ニ御通報アリタシ

(支ヨリ)北平、在支各總領事、厦門へ轉電アリタシ

宜昌、長沙、沙市へ暗送セリ

~~~~~

昭和11年9月2日 在中国川越大使より  
有田外務大臣宛(電報)

成都事件解決条件に関する劉湘四川省主席の

非公式提案について

上海 9月2日後発  
本省 9月2日後着

第七〇六號(至急)

重慶發本使宛電報

第二二號

大臣へ轉電アリタシ

第六一號

在成都糟谷、松村ヨリ

往電第五八號ニ關シ

(二)我方ノ要求ニ基キ民衆運動取締ノ訓令ヲ發セル點

(三)本事件ニ依ル被害者ハ日本人並ニ日本人常宿ノ旅館及日貨取扱支那商ノミニテ純然タル排日ヲ目的トセルモノナル點

(四)事件當日ニ至ル迄成都支那側官憲ハ岩井入蓉反對等ノ宣傳文標語ノ撤布セラレ市民大會ノ開催等ヲ許可又ハ放任シ何等效果的取締ノ措置ヲ講セサリシ點(市民大會開催ノ有無ニ付テハ冒頭往電(一)御參照)

(五)暴徒カ二十四日午後五時頃大川旅館階下ノ破壊ヲ開始シテヨリ午後六時過同旅館三階ノ一行ニ肉迫スルニ至ル迄一時間以上ノ餘裕アリタルニ拘ラス事件ノ重大化ヲ豫想セス僅ニ武器ヲ有セサル少數ノ公安局員ヲ増加シタル外何等適切ナル防遏ノ處置ヲ執ラサリシ點

(六)同日午後六時過邦人ニ對スル暴行再開後直ニ武裝軍警ヲ繰出シ武力ヲ以テ鎮壓スヘカリシニ拘ラス軍警ノ出動遲延シ且狀況ノ判斷ヲ誤リ武器ヲ使用セス一發モ發砲セサリシ點(支那側ノ鎮壓振如何ニ手緩カリシカハ事件カ翌二十五日午前六時頃ニ至リ漸ク鎮定セラレタルニ依ルモ明カナリ)

三十一日夜吳澤湘ハ本官等ニ對シ劉湘ノ命ニ依リ半公式ニ申出ツル次第ナリトテ劉ハ支那側ノ取締不十分ナリシ責任ヲ認メ

(一)犯人ノ逮捕處罰

(二)責任者タル警備司令及公安局長ノ處分(行政院ヨリモ四日前責任者ノ氏名報告方命令アリ既ニ報告済ノ由)

(三)負傷者ニ對シテ治療代及全治迄ノ生活費

(四)死者遺族ニ對スル弔慰金ノ支拂

ノ四條件ニテ本件妥結方希望シ居ルニ付右貴國政府ニ御通報アリ度キ旨申出テタルヲ以テ本官等ヨリ右ハ支那側ニ於テ事件ノ責任ヲ認メタル點ニ於テ一進歩ニテ報告丈ケハスヘキモ今更問題トハナラサルヘシト答ヘ置キタリ

本電適宜陸海軍ニモ御通報アリタシ

北平、在支各總領事、厦門へ轉電アリタシ

長沙、沙市、宜昌へ暗送セリ

~~~~~

416 昭和11年9月2日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件に關し中國政府の排日運動取締不徹

底を孔祥熙へ詰問について

南京 9月2日後発
本省 9月3日前着

第六三六號

往電第六二九號ニ關シ

本二日孔祥熙ハ本官ニ對シ先ツ成都事件ノ發生ハ誠ニ意外ニシテ行政院副院長トシテ深厚ナル遺憾ノ意ヲ表スル次第ナリト前提シ九月五日廬山ヨリ歸寧ノ豫定ナリシモ蔣介石ヨリ成都事件モアリ急ク様電報アリ廿九日歸寧シ本件ノ經過等ニ付折角取調中ナルカ廣西問題未解決ノ爲今尙反動派ニシテ上海、長沙、四川等ニテ日本トノ問題ヲ惹起セシメントシ居ル分子多キヲ發見シ前途尙憂慮ニ堪ヘサルニ付テハ此ノ際日支國交調整ノ大局ヨリ日本側ハ極メテ敏速且簡單ナル方法ニ依リ解決方考慮スル様政府ニ取次カレ度ク殊ニ敦睦令ヲ發布シタルカ如キ支那側ノ誠心誠意ヲ參酌アリ度シト何時ニナク恐縮ノ面持ニテ持前ノ手前勝手ヲ並ヘタルニ付本官ヨリ眞相調査中故非公式ニ述フル次第ナルカ今次事件カ反動分子ノ作爲ナリ等トハ以テノ外ニシテ成都、重慶兩地ノ過去一箇月半ニ亘ル繼續的排日記事殊ニ領事館

設置ニ對スル惡ドキ反對(渡武官ノ陸軍諜報ニ依ル)ニ見ルモ明カナリ又睦隣令ハ實ノ處客年六月十五日發布以來何等ノ效果モナカリシ敦睦令ノ蒸返シニテ却テ民衆ヲ笑ハシムルヤモ知レス寧ロ軍事委員會行政院部内及黨部ニ對シ峻嚴ナル命令ノ必要ヲ見ル實情ナリ之ヲ要スルニ此ノ際ハ支那側モ虚心坦懷ニ且徹底セル決意ヲ以テ所謂條件ノ程度等ヲ問題ニセス日支提携ノ眞意ヲ披瀝スル點ヨリ綺麗ニ解決ヲ計ルヘキ秋ナルヘシト應酬シ置キタルカ孔モ餘程困リ居ル様子ナリキ

支、北平、在支各總領事、厦門、重慶へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

417 昭和11年9月8日 在広東吉竹(貞治)總領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

北海で邦人遭難事件發生の情報について

広東 9月8日後発
本省 9月8日後着

第三八二號(至急)

北海居留賣藥商中野順三(當五十二歳、本籍愛媛縣喜多郡

五城村大字城廻岡町八八)殺害サレタル旨海南島海口ノ勝間田善作ヨリ本八日入電アリタリ電文簡單ニシテ事件ノ内容判明セサルモ實地調査ノ爲戸根木及松浦ヲ邦人醫師ト共ニ同地ヘ急行セシムルコトセリ

尙本日外交部特派員ニ對シ不取敢犯人至急逮捕方並ニ事件ノ判明ヲ俟チ更ニ何分ノ申入ヲ爲スヘキ旨照會シ置キタリ

大使ヨリ可然轉電、轉報アリ度シ

支、南京へ轉電シ、香港へ暗送セリ

418 昭和11年9月8日 在中國川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件当日における現地民衆大会の開催を
吳沢湘否定について

上海 9月8日後発
本省 9月8日夜着

第七四五號

重慶發本使宛電報

第二二號

大臣へ轉電アリタシ

第七二號

七日日本官他用ヲ以テ吳澤湘(六日歸渝セリ)ヲ往訪シタルニ吳ハ進テ口ヲ開キ日本側ニテハ成都事件當日民衆大會開催ノ有無ノ點相當重視セラレ居タル様子ナルカ其ノ後ノ取調ニ依リ二十三日ニ民衆大會アリタルハ事實ナルモ二十四日ニハ無之唯宣傳隊繰出サレタルニ過キス(此ノ點新聞記事ト符合ス)ト語リタルニ付本官ハ吳カ二十五日本官來訪ノ節大會ノアリタルコトヲ言明シタル點ヲ突込ミタルニ右ハ賀國光ヨリノ通知ニ依リタルモノニシテ吳ハ成都ヨリ電話ノ儘ヲ告ケタル次第ニシテ之ヨリ先岩井既ニ成都ニ入り暴動起リタリトノ消息ニモ接シ居リタルカ何レニセヨ責任者タル警備司令公安局長ノ非常ナル手落ニシテ兩名共警備方面ニハ殆ト經驗ナカリシ爲今回ノ大失態ノ如キハ極メテ當然ナリト述ヘ成都ニ於ケル調査當時トハ打テ變ツタ態度ヲ示シ居タリ尙同人ハ八日當地發飛行機ニテ滞在約一週間ノ豫定ニテ赴寧ノ筈

追テ成都ニ於テ本官等接待ニ要シタル食費、自動車費、負傷者ノ治療費、死亡者ノ火葬費等諸掛一切請求方申入レ置キタルニ六日吳ヨリ細大漏ラサス精算ノ上一千元請求越シ

タルニ付(委細郵報)早速支拂ヒ置キタリ
支ヨリ北平、南京、漢口へ轉電シ上海へ轉報アリタシ

419 昭和11年9月8日 在広東吉竹総領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

北海事件現地調査に関しわが方調査員への保護
護および便宜供与を外交部特派員に対し要求
について

広東 9月8日後発
本省 9月8日夜着

第三八三號(至急)
往電第三八二號ニ關シ

本官本八日午後外交部特派員ヲ作謙ヲ往訪シ公文ヲ手交ス
ルト共ニ口頭ヲ以テ申入レタル處ヲハ遺憾ノ意ヲ表シ始終
狼狽ノ氣味ニテ

一、實ハ本月三日北海ニ民衆運動行ハレ游行中ノ民衆カ中野
ヲ殺害セル旨昨七日省政府ニ入電アリ

二、同日余漢謀及黃慕松ハ連名ヲ以テ李宗仁宛ニ犯人ノ逮捕

420 昭和11年9月9日 在広東吉竹総領事代理より
有田外務大臣宛(電報)

北海事件への対処振りに関する黃慕松広東省
主席の内話について

広東 9月9日前発
本省 9月9日前着

第三八四號(至急)
往電第三八三號ニ關シ

本官本八日夜黃慕松ヲ訪問シ

一、成都事件未タ解決ヲ見サル今日北海ニ於テ中野殺害事件
發生シタルハ日支國交上遺憾ニ堪ヘス本件ニ關シ貴主席
ハ現地ヨリ如何ナル報告ヲ入手シ居ラルルヤト尋ネタル
ニ對シ

二、黃ハ昨七日廣西側ヨリ中野殺害ノ電報アリタルモ電文簡
單ニシテ詳細不明ナリトテ多ク語ラス依テ本官ハ貴主席
ハ如何ナル措置ヲ執ラレタルヤト問ヒタルニ黃ハ昨七日
李宗仁ニ對シ本件詳細調査方電請シ更ニ本日屍體ヲ其ノ
儘保存シ置ク様電報シタリト答ヘ次テ黃ハ本件ハ些細ナ
ル事件ナルニ付速ニ解決スル要アリト語リタルヲ以テ

方電請シ置キタル一方海口ノ綏靖分署許。委員ニ對シテモ
本件調査方電命濟ナリト述ヘタルニ付

三、本官ハ中國側カ既ニ本件通報ニ接シ居リ乍ラ當方ニ何故
ニ通告セサリシヤト其ノ不都合ヲ詰問シ當方トシテ至急
館員ヲ現地ニ派遣調査セシムヘキニ付必要ノ保護並ニ便
宜供與方取計ハレ度キ旨要求シタルニ對シハ北海ハ目
下第十九路軍ノ翁。照。垣。部隊カ占據シ居リ

當方トノ交通モ遮斷サレ且中央及廣西ノ勢力之ニ及ハス
困惑シ居ル次第ニテ斯ル際貴館ヨリ館員ヲ派遣サルコ
トトナラハ十九路軍側ニテ何ヲ仕出カスヤモ測ラレサル
ニ付差控ヘラレ度シト答ヘタリ

四、依テ本官ハ成都事件漸ク交渉ニ入ラントスル此ノ際斯ル
事件ヲ發生シ置キ乍ラ此ノ上貴方ニテ我方ノ本件調査ニ
助力セサルコトアラハ益々日本側ノ輿論ヲ激昂セシムル
結果トナルヘキヲ以テ是非共調査ノ出來得ル様努力セラ
レ度ク尙本日中黃主席ニ面會シ得ル様取計ハレ度キ旨申
入レ引取りタリ

大使ヨリ可然轉電、轉報アリタシ
支、南京へ轉電シ香港へ暗送セリ

三、本官ハ本件ハ民衆運動即チ抗日運動ノ結果ニシテ成都事
件ト性質同一ノモノナルニ依リ我方ニ於テハ極メテ重大
視シ居ル次第ナレハ速ニ犯人ヲ逮捕セラレ度シト申入レ
タル處

四、黃ハ俄ニ態度ヲ改メ自分モ本件ヲ重視シ居リ決シテ責任
ヲ回避スルモノニアラス貴官ヨリ派遣サルル調査員ニ對
シテハ外交特派員ヨリ秘書ヲ同行セシムヘキニ付支那軍
艦ニ便乗セラレ度シト申出テタリ

五、依テ本官ハ御配慮ハ多トスルモ帝國官憲カ貴國軍艦ニ便
乗シタル前例ナキノミナラス起居不便ナレハ帝國軍艦ニ
テ現地へ派遣スヘシト答ヘタル處

六、黃ハ日本軍艦北海入港セハ民心ヲ刺戟スル惧アルニ付是
非支那軍艦ヲ利用セラレ度シト繰返シ申出テタルヲ以テ
明日回答スヘシト引取りタリ

支ヨリ北平、在支各總領事へ轉電シ上海へ轉報アリ度シ
香港へ暗送セリ

421 昭和11年9月9日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件への四川省政府および党部の関与に
関する情報について

南京 9月9日前発
本省 9月9日前着

第六五七號(極秘)

成都事件ニ關スル例ノ行政院側ヨリノ内報左ノ通
其ノ後ノ調査ニ依レハ成都事件ハ省黨部及省政府ノ合作ニ
シテ殊ニ張均(陳立夫系)之ヲ指導シ標語ノ作成、貼附ハ中
小學生ヲシテ之ニ當ラシメ又渡邊等ノ屍体ハ適當處分シ痕
跡ヲ隠蔽セントシタルモ失敗セルモノナルコト判明セリ成
都領事館設置ニ對シテハ中央政府ハ強硬反對ハセサル模様
ナリ但シ全般的排日取締ハ困難ナルモノノ如シ蓋シ蔣政府
ノ反日方針ハ既ニ公然ノ祕密化シ軍事委員會等ヨリ發出ス
ル排日命令ハ幾何ナルヲ知ラサル状態ナレハナリ(現今中
央ニ於ケル排日派分派左ノ如シ)

一陳立夫系

二中央軍官學校系

三楊杰系

四英米派

成都事件發生に鑑みわが方居留民の保護に最善
を尽くすべき旨吳鉄城上海市長内話について

上海 9月10日後発
本省 9月10日夜着

第七五三號

吳鉄城ハ十日往訪ノ清水ニ對シ今次ノ成都事件ニ關シテハ
上海市民ノ大多數ハ略冷靜ナル態度ヲ持シ居ルモ最近一部
ノ間ニ日本ハ此ノ際國民黨部ノ解散ヲ要求シ進ンテ蔣介石
ノ責任ヲ問ヒ下野ヲ強要スル豫定ナルヲ以テ結局日支ノ衝
突ハ免レサルヘシトノ憶説流布セラレ多少人心動搖ノ徴ア
リ右ハ極メテ少數ノ反動分子カ中央反對乃至兩國離間ノ爲
故意ニ放送セル宣傳ニ基クモノト察セラルル處何レニスル
モ日本側ニ於テハ官憲カ折角激昂セル居留民ヲ慰撫シ自重
セシメ居ル際萬一支那側ニ何等問題發生スルカ如キコトア
レハ益々支那側ノ責任ヲ加重スルコトナル次第ナルニ付
既ニ公安局ニ命シテ特別警戒ヲ爲サシムルト共ニ九日各新
聞社代表ヲ招キ充分言論ニ注意シ人心ヲ衝動セシメサル様
警告ヲ與ヘ置キタルカ日本居留民ノ保護並ニ治安ノ維持ニ
付テハ此ノ上トモ最善ノ努力ヲ拂ヒ交渉ノ進行ニ支障ヲ來

其于右任、馮玉祥系(聯蘇派)

支、北平、天津、重慶へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉電アリタシ

422 昭和11年9月9日 在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

北海に向けてわが方軍艦上海出航について

上海 9月9日後発
本省 9月9日夜着

第七四七號

當地海軍武官室ノ通報ニ依レハ北海ノ邦人殺害事件發生ノ
爲當地ニ待機中ノ軍艦吳竹及早苗ハ本九日朝八時半出港香
港ニ直航セルカ吳竹ハ直ニ北海ニ又早苗ハ廣東ニ赴ク豫定
ニテ又現在廣東碇泊中ノ嵯峨ハ總領事館員及北浦海軍武官
ヲ乗セ九日北海ニ向フ豫定ナル趣ナリ

在支各總領事、北平、香港、廈門、汕頭へ轉電セリ

423 昭和11年9月10日 在中国川越大使より
有田外務大臣宛(電報)

ササル様苦心シ居レリト語レル趣ナリ

北平、南京へ轉電セリ

424 昭和11年9月11日 在南京須磨総領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件の煽動者が九月十八日に大規模な邦
人襲撃を計画中との情報について

南京 9月11日後発
本省 9月11日夜着

第六七九號

例ノ行政院側ヨリノ内報ニ依レハ今回成都事件ノ先棒ハ軍
事訓練ヲ受ケツアル學生ナルコト判明シ此ノ點ハ既ニ張
群ヨリ有ノ儘蔣介石ニ報告済ニシテ軍事訓練ノ續行ハ内ニ
潜在スル藍衣社分子ノ策動ヲ誘致スル惧アリトテ憂慮スル
向モアル處蔣介石ハ斷然之ヲ續行スル意嚮ニシテ今十一日
陳立夫ヲ訓導班主任ニ、劉建羣ヲ副主任ニ任スル旨發表セ
リ
尙右等一派ハ九、一八紀念日當日戰機促進ヲ目的トシテ大
規模ノ日本人襲撃ヲ目論ミツツアリトノ説傳ヘラレツツア

リ

尙右ニ關シ昨十日日本官張群ニ排日取締方申入ノ節(往電第六六七號參照)張ハ九、一八ヲ機トシ種々策動ノ噂傳ヘラルルニ依リ既ニ各地警察當局ニ對シテハ嚴重警戒方手配濟ナル旨語り居タリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

支、北平、天津、漢口、廣東、濟南ヘ轉電セリ

425 昭和11年9月16日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

北海へのわが方調査員上陸が急速実現するよう
う手配方張群へ要請について

南京 9月16日後發
本省 9月16日夜着

第七〇〇號(至急)

川越大使ヨリ

本使十六日午後四時張群ト會見シ北海事件ニ關スル我方調査員ノ上陸ハ今尙日鼻付カサル狀態ナル處事態ハ極メテ重大ニシテ之以上遷延ヲ許ササルニ付支那側ニ於テハ速ニ我

我々トシテ如何トモスヘカラサルカ如キ事態ノ發生スル惧モアルニ付充分注意アリ度旨答ヘ置ケリ尙其ノ際許大使ヨリ成都及北海事件ニ付何等承リ置クヘキコトアラハ承知シ度シトノコトナリシヲ以テ左記趣旨ヲ述ヘ置ケリ

成都事件ニ引續キ北海事件ノ發生ヲ見タルハ誠ニ遺憾ノコトニシテ日本國論ノ沸騰シ居ルコト御承知ノ通ナルカ若シ此等事件ノ解決ヲ見サル内ニ更ニ第三ノ事件起ルカ如キコトアリテハ遂ニ收拾出來サルコトト成ルヘク此ノ點ハ國民政府トシテモ充分注意アリ度シ尙成都事件解決ニ關スル交渉ニ關シテハ先般申上タル通り國交ノ調整ナル大目的ヲ達成センコトヲ以テ根幹トシ從ツテ我方ノ要求スル所ハ何等過大ノモノニ非サルハ勿論、日支双方ノ利益ニナルコトナリ。日本國民ハ今次事件ヲ楔機トシ最近ノ不明朗ナル日支關係ヲ一掃シテ貫ヒ度シトノ強キ希望ヲ有スル次第ナレハ支那側トシテモ我方ノ言フ所ニ從ヒ問題ノ解決ヲ計ラレ度ク支那側ニ誠意サヘアラハ今次事件ハ所謂雨降ツテ地固マルモノトモ申スヘキナリ、今次事件ノ結果ハ日支國交ヲ非常ニ良好ナラシムルカ或ハ非常ニ惡化セシムルカノ二者何レカラ出テス兩國ノ國交ハ今日迄ノ如キ不明朗ナル形ノ儘

方調査員カ上陸シ得ル様適切ナル方策ヲ盡スコト必要ナル旨申入レタル處張ハ本件ニ付テハ曩ニ須磨總領事ヨリモ申出アリ(往電第六八五號)既ニ二十四日蔣委員長ニ宛テ本件急速解決方電報シ置キタルヲ以テ蔣モ目下極力手配中ノコトト察セラルルカ御申出ノ次第モアリ當方ニ於テモ事態ヲ憂慮シ居ルニ付本日更ニ蔣介石ニ電報シ一層之カ促進方手配スヘシト答ヘタリ

支、廣東、香港ヘ轉電セリ

426 昭和11年9月17日 有田外務大臣より 在南京須磨總領事宛(電報)

成都事件および北海事件に関する有田大臣と
許大使との会談内容について

本省 9月17日發

第一六五號

十七日許大使本大臣ヲ來訪シ國民政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ十九路軍ハ目下撤退ヲ開始シツツアルニ付茲數日間辛抱アリ度旨申出タルヲ以テ本大臣ヨリ撤退ノ完了遷延スルニ於テハ支那側ニ誠意ナシトノ議論モ出テ來ルヘク其ノ結果

ニテハ全ク濟マサレヌ次第ニテ支那側トシテハ日支ノ國交ヲ良好ナラシムルカ或ハ惡化セシムルカノ重大ナル岐路ニ立チ居リ重大ナル決意ヲ要スル義ナリニ付蔣院長及張部長二十分傳ヘ置カレ度シ

支、北平、天津、廣東、香港ニ轉電セリ

427 昭和11年10月6日 在廣東中村總領事より 有田外務大臣宛

北海事件に関する現地調査報告

機密公第四三一號

(接受日不明)

昭和十一年十月六日

在廣東

總領事 中村 豐一

外務大臣 有田 八郎殿

北海中野殺害事件調査送付ノ件

北海中野順三殺害事件現地調査ノ爲過般當館ヨリ派遣シタル戸根本書記生及松浦警部補ヨリ今般調査復命書ノ提出アリタルヲ以テ右五部別添ノ通り送付ス

本信寫送附先 在支大使、北平、在支各總領事、香港、

(別添)

昭和十一年九月三日廣東省北海ニ於テ行ハレタル中野順三
殺害事件ニ關スル調査報告書別添ノ通り提出シタルニ付御
査閲相成度

昭和十一年十月五日

外務書記生 戸根木長之助

外務省警部補 松浦 弘人

在廣東

總領事 中村 豐一殿

昭和十一年九月三十日

昭和十一年九月三日廣東省北海ニ於テ行ハレタル中野順三
殺害事件ニ關スル調査報告書

在廣東大日本帝國總領事館

外務書記生 戸根木長之助

外務省警部補 松浦 弘人

目次

- 第一 調査ノ經過概要
- 第二 北海市民ノ一般對外感情
- 第三 殺害事件發生直前直後ノ抗日狀況
- 第四 北海市民ノ中野ニ對スル感情
- 第五 中野殺害狀況
- 第六 犯行ノ原因
- 第七 中國官憲ノ中野事件ニ對スル措置及態度
- 第八 中野ノ北海ニ於ケル生活概況
- 附屬

一、檢證調査書及死体檢案書

一、聽取書 四通

第一 調査ノ經過概況

北海在住日本商人原籍愛媛縣喜多郡五城村大字城廻字岡町
八八番地戸主中野順三九月三日北海ニ於テ何人カニ殺害セ
ラレタリトノ情報ニ接シ依命調査ノ爲九月九日夜廣東發十
日香港ニテ軍艦嵯峨ニ便乘同日午前八時半出港十一日海口
着翌十二日同地發同日夕刻北海ノ外海ニ到着セリ折柄先導
者トナルヘク打合セタル支那ノ御用船福安ヨリ北海ニ入ル

コトナク直ニ引返ス様旗號アリ支那側派遣員凌士芬ハ北海
ニハ今尙十九路軍駐屯シ上陸不能ニシテ日本側ニテ近寄ラ
ハ發砲モ辭セサルヘシト語リ其儘廣東ニ引揚ケタリ爾來現
地ニ於ケル情勢ノ改善ヲ待ツコト十日ニシテ二十二日正午
再ヒ來航セル福安ヲ先頭ニ北海ニ入り二十三日及二十四日
ノ兩日ニ亘リ上陸調査ヲ行ヒタリ

曩之二十一日夜廣東軍ノ北海入りノ入報アリ兎モ角二十三
日ニハ北海上陸ノ運ヒトナリタルカ日本側調査員一行保護
ノ爲中國側ノ警戒嚴重ヲ極メ沿路ニハ支那軍隊整列シ居リ
又我方ノ行動スル際ニハ支那側派遣員凌士芬其他同行ノ憲
兵及北海公安分局等モ常ニ同行シ一步モ離レス此レカ爲ニ
我方獨自ノ立場ニテ自由ナル調査ヲ爲スヲ得サリシハ遺憾
ナリ且ツ市街ハ一切ノ排日傳單等撤去サレ居リ我方ニ對應
スル人物モ亦外支人ヲ問ハス何レモ警戒シテ當リ障リナク
應答スル有様ニテ凌士芬等カ北海上陸ニ到ル迄ニ現地中國
側ニテ對應上相當手配シアリタルモノトモ考ヘラルル節ア
リタリ

二十三日中野店舗ヨリ墓地ニ赴キ屍体檢證ノ際ニハ中野ノ
妻及長女等突如出現シ屍体火葬ノ手配ヲナシ又市政分局ニ

第五百十九師參謀長許讓玄ヲ往訪セル際公安局員ハ中野ノ
妾及其三子ヲ連行シ來リ又三日夜以來行衛ヲ晦シ居タル長
男清モ同時刻ニ三十支里ノ田舎ヨリ馳セ付ケ茲ニ中野全遺
族ノ安全ナリシヲ確メ中國側ノ異議アリタルモ長男、長女
ヲ嵯峨艦ニ同行セリ

二十四日午前殺害現場、遺族ノ取調ヲ續行支那側官民ヲ往
訪後一旦嵯峨ニ引返シ午后再ヒ上陸、遺族ヲ收容、公安分
局長代理郝叔修、凌秘書等立會ノ下ニ各部屋及商品棚ノ封
印ヲ終リ店舗ヲ閉鎖表入口ノ鍵ヲ公安分局長代理ニ手交シ
テ松浦ハ遺族ト共ニ嵯峨ヘ戸根木ハ稅務司、米、獨宣教師
等ト會見ノ上午後七時過キ嵯峨ニ歸還シ現地調査ヲ終了セ
リ

尙中野遺族十名ハ暫時廣東沙面佛租界ニ居住セシムルコト
トシタリ

第二 北海市民ノ一般對外感情

北海ノ一般對外感情ニ關シテ主トシテ同地外人筋ヨリノ聽
込ヲ綜合スルニ由來北海人ハ頗ル平和的ニシテ居留外人ニ
對シテ何等惡感ヲ抱ケルコトナク現ニ獨逸人宣教師「ベス
ケ」ハ概シテ北海人ハ平和ナリト述ヘ海關關係者ニ於テモ

北海人ハ溫和ニシテ良ク海關方面ノ命令ニ服從シ殆ト海關トノ紛議モナキ旨語リ斯ル慘酷ナル殺人事件ヲ爲スニ適セス何レモ中野ヲ殺害シタル犯人ハ北海人ニアラス外人ト認ムト證言シ居タルカ北海商會ニ於テモ同商會委員等モ亦北海人ハ何等對日的惡感ヲ抱キ居ラサル旨ヲ證言シ居リ

固ヨリ北海ニ於テモ滿洲上海兩事件後支那各地ト同様抗日排日貨ノ行ハレタルコトハ事實ニテ客年七月下旬海口ノ勝間田カ第五戰隊ト共ニ北海ニ赴キタル際ハ中野ハ同地ノ抗日情況ヲ語リ北海市商會ニテ一時商人ノ日本商品ヲ保管シタルコトアリ日本品トシテ公然賣レタルハ同年七月頃眼鏡類ヲ以テ始メテトシ帝國軍艦入港ノ爲市内ノ抗日傳單、標語モ支那軍隊出動シ全部之ヲ剝キ取りタリト語リタル事實アリ同地外人ニ於テ一様二十九路軍ノ入北以前ハ何事モナカリシ由ヲ語リ居レルニ鑑ミルトキハ近頃ハ北海モ廣州市其他ト同様官憲ノ手ニテ漸次表面的ニハ抗日ヲ緩和シ來リ平靜ナル儘八月下旬十九路軍ノ入市ニ至レルコト事實ト認メラル

第三 事件發生直前直後ノ抗日狀況

午前十時ヨリ更ニ抗日示威巡行アリ市民ノ避難スルモノアリタルニ鑑ミ翁照垣師長ハ北海市商會ニ於テ中野ノ殺害セラレタルコトヲ發表シ中野ハ自分カ人ヲシテ殺サシメタルモノニテ抗日ノ爲ナレハ商民ハ何等恐ルル必要ナシト演說セリ

然ルニ七日ニ又中野ノ暗殺ハ民衆ノヤツタコトタト演說シタル爲ニ商人ハ前後ノ矛盾スルヲ見テ翁ハ責任ヲ民衆ニ塗リツケルモノナリトシテ憤慨シ又日本海軍カ來ル場合ニハ最後迄抗戰スト云ヒタル爲ニ商民ノ避難スルモノ更ニ増加スルニ至レリ

第四 北海市民ノ中野ニ對スル感情

中野ノ性質及素行ニ關シテ近隣ノ者及交友セシ外人ニ付調査スルニ隣家宏昌號ノ主人李國明ハ性質頗ル溫厚ニシテ近所交際モ亦頗ル圓滿ナリト語リ又北海市商會ニ於テハ主席陳壽鄉ヲ始メ委員一同中野ノ人格圓滿ナリシコト並オ互ニ商人同志ニシテ取引關係モアリ好感ヲ有シ居リ中野ノ殺害ハ誠ニ不幸ニシテ深ク同情シ居ル旨ヲ述ヘタリ

又官憲方面ニ在リテハ北海公安分局長代理郝叔修ハ中野ハ非常ニ好キ人物ニテ北海民衆トノ感情モ好ク永年在任中ニ

本年八月下旬十九路軍ノ南路進出シ合浦北海ヲ占領シテヨリハ同軍年來ノ主張タル真正抗日ノ影響表面化シ來リ即チ北海稅務司「ホウキンス」ハ私カニ本官ニ對シ十九路軍ノ入北ニテ人氣惡化シタルヲ内話シ居リ中野事件後北海ヲ去リタル某外人ハ香港帝國總領事ニ對シテ「八月二十三日ノ夜ハ北海市中騒然トシテ寢ラレス何故ナリヤト調ヘタルニ十九路軍入り來ル爲役人カ逃走シ初メタルモノナルコトヲ確メタルカ翌二十四日同軍ノ入市ヲ見即日全市ニ抗日ビラヲ貼り時々會合ヲ催シタリ」ト語リ中野遺族モ亦十九路軍カ北海ヲ占據シテ以來各所ニテ毎日反蔣抗日ノ宣傳、會合ノ行ハレタル旨證言シ居レリ

其後九月三日中野殺害事件發生以後ニ於テハ大規模ノ抗日遊行モ舉行サルルニ至リタリ遺族ノ供述ニ由レハ殺害事件ノ翌四日ニハ早朝ヨリ抗日ノ大示威遊行行ハレ十九路軍指導ノ下ニ同軍人約百五十名、廣西ヨリ來レル學生約三百名ノ外全市學生約千名市民約五十名ヲ強制的ニ參加セシメ中野ノ家屋門前ニハ打倒日本賊、打倒蔣介石漢奸、打倒日本偵探、滅絶日人狗子等ノ標語貼付サレタルカ九月二十一日廣東軍北海ニ入リシ際ニハ全部剝キ取ラレタリ九月五日モ

何等問題ナカリシコトヲ述ヘ商會ニテ會見シタル合浦地方法院檢察官余審英ハ中野ハ從來刑事關係ノ訴訟事件ハ固ヨリ他人ニ怨マルルカ如キ事柄ナク酒ヲ飲ミタル際ニモ陽氣トナリヨク愉快ニ談論スルコトコソアレ之カ爲騷擾ヲ惹スカ如キコトナシト述ヘ港務長「スペンサー」氏ハ北海着任以來ノ交際ナルニ誠ニ好人物ニシテ未タ不快ヲ感シタルコトナシト語リ要之一同ハ中國側派遣員ノ手前ヲ憚カラス中野ノ人物ノ良好圓滿ナルヲ語リ居リ之ニ反對スル批評ヲ耳ニシタルコトナシ

尙ホ中野ノ長女千鶴子ハ父ノ性格ニ付キ父ハ北海ニ二十年以上モ居住シ未タ一度モ中國人トノ間ニ爭ヒ事ヲ生シタルコトモナク現ニ事件發生數日前北海市商會主席陳壽鄉カ十九路軍カ入城シ其ノ兵士ハ亂暴ナルカ故ニ此ノ際田舎ニ避難スル様勸告シタル際ニモ父ハ自分ハ二十年以上モ北海ニ居住シ未タ嘗テ市民ヨリ私怨ヲ受クルカ如キ仕業モナク引揚クルトシテモ相當ノ商品モアリ直ニ實行スルコトハ困難ナリトノ意味ヲ述ヘ居タルヲ聞キタル旨ヲ陳述シ居レリ

第五 中野殺害狀況

九月三日午後七時ヨリ八時ノ間ニ最初三十歳前後ノ支那人

二名客ヲ装ヒテ入り來リ一名ハ懷中電燈ヲ一名ハ玩具ヲ求メ乍ラ中野ノ長男清ニ向ヒ丸一洋行ハ日本商店ナリヤ此ノ商品ハ日本ヨリ來ルモノナリヤ、汝ハ日本人ナリヤ等ヲ質問シ清カ「然リ」ト答フルヤ否ヤモーゼル拳銃ヲ擬シ發射シタルカ不發ニ終リ更ニ父中野ノ居レル二階ニ逃ケ去ラントスル清ニ向ツテ一發發射シタルモ命中セス清ハ二階ヨリ裏庭ニ飛ヒ下リ逃レタリ同時ニ右銃聲ヲ聞キテ店外ヨリ兇漢七、八名闖入シ來リ内四名ハ拳銃ヲ發射セル男ノ跡ヲ追ヒ階上ニ馳セ上リ長女千鶴子モ之ニ續キテ上リ様子ヲ視メタルニ兇漢ノ一名ハ即座ニ中野ニ飛ヒ付キ一名ハ後方ヨリ口ヲ抑ヘ一名ハ中野ニ對シ汝ハ今支那ニ於テ何事力起リツ、アリヤヲ知レルヤト怒號シツツ短刀ヲ以テ胸部ヲ突キ刺シ他ノ兇漢ハ逃レントスル中野ヲ壁端ニ押付ケ更ニ他ノ一名ハ短刀ヲ以テ腹部ヲ突キ拳銃ヲ所持セル者ハ之ヲ以テ顔面ヲ突キ五名カ、リニテ其場ニ即死セシメタリ

右五名ノ兇漢ハ中野ノ死ヲ見届ケタル後階下ニ至リ見張中ノ五名ノ兇漢ニ中野ハ最早死セリト告ケタルヲ以テ一同ハ一物ヲモ掠取セス表ヨリ何方ニカ立去リタリ

家族ノ陳述ニ依レハ兇漢ノ服裝ハ全部便衣ニシテ支那服ヲ

着用シモーゼル銃又ハ短刀ヲ所持シ軍人又ハ學生ノ使用スル運動靴ノ様ナモノヲ穿用シ居リタリ

最初店內ニ入りタル拳銃所持ノ二名ハ其應答振リ頭髮容貌ヨリ見テ軍人ト判斷セラレ他ノ二十歳前後ノ八、九名ノ者ヲ指揮シ居レルカ如ク家族ニ於テ一人ノ顔見知りモナク最近他ノ地方ヨリ北海ニ入込メルモノト思考セラル

公安分局ニテ遺族ノ搬出セシ中野ノ遺骸ノ所在ヲ嗅キ付九月十七日無斷ニ持出シ他ニ埋葬シ居タルカ同二十三日檢證ノ爲發掘シ棺蓋ヲ開クヤ中野ノ容貌ハ兩眼ハ開キ居リ舌ハ腫レ上リタル儘兩脣ヨリ飛出シ變色シタル顔面ニモ當時ノ慘狀ヲ物語ル擦傷眼下ニ歷然タルモノアリ立會ノ日支各人ヲシテ慄然トシテ顔ヲ反セシメタリ

第六 犯行ノ原因

犯人ノ氏名及犯行ノ原因ニ關シテハ本官等ハ犯行後既ニ三週間ヲ經タル後實地ヲ檢證シ其ノ間北海ニ於テハ抗日救國軍蟠居シ又證據煙滅ノ機會アリタルニ付事件ハ物的證據ニ依リ立證困難ニシテ被害者ノ陳述及傍證ニ依リテ推斷スル外ナシ先ツ原因ヲ探究スルニ

一 私怨關係ニ基ク犯行ナリト認定スルヲ得ス

而シテ右犯行カ中野ニ對スル怨恨關係ニ發セラレタルヤ否ヲ見ルニ中野ノ性格及北海市民トノ間柄ニ付テハ既述ノ通り北海在住外人ニテ凌士芬其ノ他ノ面前ヲモ憚ラス中野ヲ稱揚シ居レル事實アリ又商會主席陳壽郷カ十九路軍第一師長翁照垣ノ命ニ依リ中野ノ退去ヲ勸告シ中野ニテ之ヲ承諾引揚準備中ナリト話シ居リタル背後ヨリ同席ノ一商會員カ中野ハ永ラク北海ニ居住シ怨ヲ受クル事ナク從テ其必要ナシト之ヲ拒否シタリト述ヘ居リシ事實並ニ港務長「スペンサー」ニ對シ中野ハ北海ニ二十數年來居住シ居レハ何等心配ナシト言明シ居レルコトニ徴スレハ中野トシテモ全ク平素私怨ヲ抱カシムルカ如キ行爲ナク外部トハ世評通りノ交際ヲ續ケ來リ假令排日中ナリトモ自身ニ何等ノ不安ヲ感セサリシモノト見ルヲ至當トスヘシ

二 掠奪ヲ目的トスル犯行ト認ムルヲ得ス

中野ノ殺害カ掠奪ヲ目的トスルニアラサルコトハ兇行前後二一物モ紛失セサリシ事實ニ徴スルモ疑フノ餘地ナシ

三 偶發的犯行ニアラスシテ集團ニ依リテ行ハレタル計劃的犯行ナリ

兇漢カ犯行ノ際先ツ二名カ中野ノ店內ニ入り店名ヲ尋ネ日本人タルコトヲ確メ然ル後店外ニ待合セ居タルモノヲ一部見張リノ爲店內ニ留メ他ハ階上ニテ中野ヲ殺害シ其死ヲ確メタル上階下ニテ見張中ノモノニ之ヲ告ケ立去リタル是等ノ舉動ヨリ見ルモ計劃的ナルコト明ナルノミナラス屋内ニ入りタル犯人ハ十名ノ多數ニシテ尙屋外ニ多數ノ同類ト認メラレシモノノ立番セル等ニ鑑ミルトキハ或ル種ノ集團ニ依リテ計劃的ニ行ハレタルコト疑ヲ容ルルノ餘地ナシ

四 政治的關係ニ基ク犯行ナリト認定セラル

既ニ私怨又ハ掠奪ニ原因セストセハ殘ル原因ハ政治的原因ニ基ク犯行ト結論セサルヘカラサル處之カ當否ヲ判スルニ

(一) 犯人ハ中野ノ店舗ニ入ルト同時ニ先ツ日本人ナリヤ否ヤヲ尋ネ其然ル旨ヲ確メタル後犯行ニ出テタル點

(二) 兇行ノ際ニ長女千鶴子ニ對シテ汝ハ支那人ナレハ何等心配ナシト云ヒ二階ヨリ飛ヒ下リントスルヲ阻止セル事實ハ日本人ノミヲ目標トセルコト明瞭ナリ

(三) 當時北海方面ニ占據シタル翁照垣師長ハ九月三日在南

寧李白總副司令ニ事件發生ノ情形及其ノ原因結果ヲ電報シタル原文中ニ

「近以抗日救國軍南來民氣沸騰、當事發生時軍警阻止無効該日人遂不免於難」

(譯文)

最近抗日救國軍カ南來シ民氣沸騰シタルヲ以テ事件發生ノ時ニ於テ軍警ノ阻止モ効ナク該日本人ハ遂ニ難ヲ免カレサリキ

トアルニ徴スルモ中野ノ殺害カ抗日救國軍ノ南路進出ニ原因スルコト明瞭ナリ又

〔四〕北海附近ニアル唯一ノ言論機關タル合浦半週報九月十六日ノ報道ニ依レハ

自抗日救國軍抵達南路後民衆抗日運動發展得非常猛烈故有中野案之發生合浦廉江兩縣的抗日救國會經已組織成立開始指導抗日運動工作

(譯文)

抗日救國軍南路ニ到着シテヨリ後民衆抗日運動ノ發展ハ非常ニ猛烈ニシテ之カ爲メ中野事件ノ發生アリ、合浦、廉江兩縣ノ抗日救國會ハ既ニ組織成立セラレ

野ハ二十年以上モ北海ニ居住シ滿洲上海兩事件ヲ通シテモ引揚ケス又彼ニ對スル内外人ノ非難ヲ聞カサリシニ拘ハラス八月二十四日十九路軍ノ來着後ニハ突如抗日の氣勢昂マリ遂ニ中野ノ殺害事件ヲ惹^(起)シタルモ彼ノ人柄ニモ考フルモ北海人ヨリ私怨ヲ受クヘキ理由ナク犯人ハ十九路軍關係ナルヘシ」ト述ヘタル點等ヲ擧クルヲ得ヘク最有力ナルハ翁師長カ九月五日北海商會ニ於テ中野ハ自分カ人ヲシテ殺サシメタルモノナレハ商人ハ關係ナシト云ヘルニ徴シ明白ナリ

要之犯人ニ對スル直接物的證據蒐集ノ如キハ固ヨリ短時日ニ於テ實行シ得サル性質ノモノナルモ如上ノ情勢ヨリ見テモ中野ノ死ト十九路軍ノ進出トハ密接ナル關係アルハ何人ト雖之ヲ否認スルヲ得ス

尚ホ犯人搜查ニ當ルヘキ北海官憲カ逮捕ニ必要ナル物的證據例ヘハ指紋ノ蒐集家人ニ付兇行者ノ容貌風體ヲ聽取シ搜索ヲ開始スル等其ノ他ノ有効適切ナル措置ヲ講セサリシハ勿論本官等カ公安局カ犯人ノ遺棄セル短刀一振ヲ持返リ居ルヲ聞込ミ之カ一見方ヲ要求セルニ公安局ハ法院側ニ尋ネラレタシト言ヒ首席法官ハ斯ル證據品保管

抗日運動ノ指導工作ヲ開始セリ

トアリ前記翁師長ノ電報ヲ裏書セリ

〔五〕中野殺害ニ先キ立チ犯人ハ長男清ヲ撃タントシテ果ササリシ事實事件發生後中野ノ門前ニ貼リタル標語打倒日本賊、打倒蔣介石漢奸、打倒日本偵探、滅絕日人狗子等ニ鑑ミルモ中野ノ死ハ日本人殺害ヲ目標トセル抗日運動ニ基クモノト斷定セサルヲ得ス

〔六〕十九路軍ノ犯行ト認定セラレ

現場ヲ目認セル家族ニ於テ兇行者ノ頭髮容貌態度言葉使ヒ及何レモ「モーゼル」銃ヲ所持シ居ル點等ヨリ犯人ハ軍人ナリト直感セル外何人ナルカヲ決定スヘキ物的證據ナキモ當時北海ヲ占據セルハ翁照垣ヲ師長トスル十九路軍ノ外ニ軍隊ノ存在セサリシコトハ當時ノ政治狀勢ヨリ明白ナリ尙犯人ヲ十九路軍關係者ナリト推測スル材料トシテハ中野遺族カ犯人ハ軍人ナリト認メ且ツ中野ノ友人ヨリ同人ヲ殺害シタルハ十九路軍ナリト聞込ミ市中ニハ十九路軍カ日本ト戰爭スル爲中野ヲ殺害セルモノナリトノ話ヲ聞キタル旨ヲ述ヘ又事件後北海ヲ引揚ケタル某外人カ香港帝國總領事ニ對シ北海ノ狀況ヲ語リタル上「中

シ居ラスト否定シタル等搜索ノ手掛リニ注意ヲ缺キタルモノアリ抑々當時ノ公安局長陳鎮ハ元十九路軍ノ營長ニシテ犯行數日前ニ公安局長ニ就任シタルモノニテ中野ノ遺族ニ對シテハ後述ノ如ク自殺ナリト云ヘト強ヒ他殺ト云ヘハ汝等モ皆殺ニスヘシト脅シタルカ如キハ言語道斷ノ行爲アリ又遺族カ某遠縁ノモノヲ通シテ知リタルトロニ依レハ公安局ハ中野ノ死屍ヲ翌四日海中ニ投シ家族モ亦山中ニ追ヒヤル計劃ナリシモ四日ノ午前ニ既ニ佛國籍安南人醫師及法院検査官ノ檢死アリシ爲ニ證據ヲ煙滅スルヲ得ス計劃ニ齟齬ヲ來セシコトニ不滿ヲ感シ居リタル趣ナリ

以上ノ事實ヨリ判斷スルニ公安局長モ亦連累者ノ一名ナリト推測セラレ

第七 中國官憲ノ中野事件ニ對スル措置及態度

翁照垣ハ殺害事件發生ノ九月三日ノ夜電報ヲ以テ南寧ニ在ル李白總副司令ニ對シ事件ノ顛末ヲ電報シタルコト既述ノ通りナルカ其後五日ヲ經過シテ九月八日廣東總領事宛在海口勝間田善作ヨリ中野ノ死ヲ電報シ來リタルヲ以テ同日吉竹總領事代理力兩廣外交特派員ヲ作謙ヲ訪問シタル際ヲ外

交特派員ハ初メテ其事實アリタルコトヲ回答シタル事實及
海南島ニ於テハ九月六日ヨリ勝間田一族ニ對シ何故カ急ニ
巡警數名ヲ派シテ警戒シ始メタルカ其後綏靖公署ニ於テハ
右廣東ヨリ北海ニ於テ日本人殺害セラレタルニツキ勝間田
ニモ警戒スヘキ様訓令ニ接シタルニ基クト語リタルノ事實
等ヨリ判斷スルニ廣東省政府當局ニ於テ數日間事實ヲ隱蔽
セリト推斷セサルヲ得ス

尙此際李宗仁、白崇禧カ九月三日夜翁照垣師長ヨリ日本人
殺害ノ電報ヲ受ケナカラ何等通報ノ措置ヲ執ラサリシ明白
ナル事實ヲ指摘セサルヲ得ス我方ノ要求ニ依リ在廣東總領
事館々員ヲ實地調査ノ爲派遣スルコトナリ第四路軍總司
令余漢謀及廣東省政府主席黃慕松兩氏ヨリ李白總副司令ヲ
經テ保護方電報シタルニ對シ翁師長ハ

「北海民衆連日巡行示威、抗日情緒緊張日領來難免
節外生枝、問題反致擴大、弟不能負責、應請拒絕前
來如強乘日艦來則本軍守土有責必實行焦土抗戰：」

譯文

北海民衆ハ連日巡行示威、抗日情緒緊張シ居ルヲ以
テ日領來ラハ益々事件ヲ生シ問題ハ却ツテ擴大サル

家宅搜查ヲナシタルカ如キ奇怪ナル言動アルニ至リテハヨ
シ關係ナシトスルモ外國人ノ保護ニ缺クルトコロアルモノ
ニシテ頗ル遺憾ナリト云フヘシ

公安局ノ遺族ニ對スル處置振リヲ見ルニ家族ハ九月四日檢
屍遺骸ヲ納棺シ葬儀ヲ行ハムトシタルモ近隣ノモノヨリ身
邊ノ危險ヲ説カレ之ヲ見合セ蟄居シ居リタル二十一日夜公
安分局員ハ一同ヲ市外ノ一寺院ニ伴ヒ該所ニ保護ト稱シテ
留置セリ該所ニ於テハ食事ヲ自給セシメ相互ノ會話ヲ嚴禁
シ晝間巡警一名夜間ハ二名ニテ監視セシカ其ノ際巡警ハ若
シ日本軍艦ノ來航スルコトアラハ汝等全部ヲ殺害スヘシト
述ヘタリ

九月十四日遺骸處分ノ名目ニテ一時放免シタルモ家族ハ歸
宅後近隣ノ勸ニ依リ遺骸ヲ其儘トシ再ヒ市外ニ避難セリ
九月十六日早朝中野ノ妻ハ苦力ヲ傭入レ住宅ヨリ中野ノ遺
骸ヲ北海市外藥園村愛生院ニ運ヒ出シタルモ何故カ公安局
員ハ十七日夜遺骸ヲ何方カニ搬出シタリ爾來妻及其三名ノ
子ハ實家ニ逃レ本妻及其子ハ四方ニ避難セリ
九月二十三、四日ニ亘ル調査ニ於テ本官等ヨリ公安分局長
代理檢察官ニ對シ犯人ノ見込捜査方針ニ付テ質ネタルモ何

ヘク弟ハ責任ヲ負ヒ得サレハ其來ルヲ拒絕セムコト
ヲ請フ若シ強ヒテ日本軍艦ニ乘リ來ラハ本軍ハ國土
ヲ守ル責任アリ必ス焦土抗戰ヲ實行セム

トノ旨回電シ斷然調査ヲ拒絕シ武力抗戰ヲ以テ威嚇セリ併
カモ彼ノ謂フ民衆運動ナルモノハ其ノ自ラ指導スルモノナ
ルコト明白ナリ斯ル抗日情勢ノ下ニ存在スル北海軍警當局
カ犯人ノ逮捕遺族ノ保護ニ何等誠意ト實力ヲ以テ捜査ニ當
リ得ヘキ地位ニアラサリシハ勿論公安局長前身ハ數日前迄
ハ十九路軍ノ營長タリシ事實ニ徴スルニ彼等モ亦一味ナリ
ト云フモ過言ニアラス翁師長ハ中野ニ引揚ケヲ勸告スル程
ノ危險ヲ予知シタルニ拘ラス巡警ヲ派シテ身邊ヲ保護スル
等ノ適當ナル方法ヲ講セサルノミカ公安局當局ハ九月三日
午後九時中野遺族ノ番頭某ノ訴ニ依リ公安局員並市政局ノ
役員約十名檢屍ニ來リシ際モ彼等ハ遺族ニ對シ他人カ尋ネ
タル場合ハ他殺テナク中野ハ自殺セリト云フヘシ他殺ナリ
ト云ヘハ汝等モ亦皆殺ニスヘシト脅嚇セル事實等何レモ前
記ノ推斷ヲ正當化スル資料ナリト認ム若シ夫レ彼等カ犯人
ノ容貌風體等手掛リトナルヘキ資料蒐集ニ付何等注意ヲ拂
ハサルノミカ却テ中野カ拳銃ヲ有シタリシヤ否ヤヲ聞質シ

レモ通一編ノ挨拶ニシテ明確ナル回答ニ接スルヲ得ス
然ルニ九月三日事件發生ノ當時北海地方ノ實權力タル翁照
垣麾下ノ抗日救國軍ノ態度ニ關シ合浦半週報ノ報道スル處
ニ依レハ

「在抗日救國軍方面以爲民衆抗日運動係爲自動的合
理的必要的、自然不應加以干涉而保民族精神均認中
野案之發生純出民衆愛國之行動表示不負責」

(譯文)

抗日救國軍方面ニ在リテハ民衆抗日運動ハ自動的合
理的、必要的ナルモノニテ自然之ニ干涉ヲ加フヘカ
ラスシテ民族精神ヲ保ツヘキモノトナシ何レモ中野
事件發生ヲ至ク民衆愛國ノ行動ヨリ出テタルモノト
認メ責任ヲ負ハサルコトヲ表示セリ

トナシ中野ノ殺害ヲ以テ愛國運動ノ結果ナリト稱揚シ居ル
ヲ認メタリ
本官等ハ十九路軍九月二十一日北海撤退後廣東軍入市シ始
メテ事實調査ニ着手スルコトヲ得タルカ以上ノ事實ヲ綜合
スルニ中野ノ殺害ハ偶發的突發事件ニアラス又私怨強盜ニ
原因スルニアラスシテ當時ノ官憲ノ指導ノ下ニアル抗日救

國軍ニ依り政治的目的ヲ以テ實行セラレタルモノト斷定セリ
(以下省略)

428 昭和11年10月13日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件の賠償請求額につき請訓

南京 10月13日後発
本省 10月13日夜着

第^⑧八二六號

川越大使ヨリ

亞一機密第一一五號貴信ニ關シ

成都事件自体ノ解決ニ入ル段取トナラハ左記(一)及(二)ノ通り
要求シ度キ所存ナル處何分ノ儀御攻究ノ上同電アリ度シ
(一)死亡者ニ付テハ弔慰金ハ死者ノ年收ヲ基礎トシ外務省查
定標準ニ依ルトセハ渡邊、深川兩者ノ間ニ大差ヲ生スル
處(前者六萬四千八百元、後者三萬五千八百四十七元、
支發南京宛機密大第四二二號參照)同一事件ニ依リ同一
ノ狀況ニ於テ死亡セル關係ヲ考慮スル時ハ賠償額ニ差別
ヲ生スルハ面白カラサルニ付兩者ヲ一律六萬元トシ右ニ

田中、上海ノ分(目下上海ニテ調査中)ニ成都ノ分ヲ加
ヘタル額(算出方法瀨戸ノ通り百三十元ヲ加ヘタル額)
(二)休業損害

瀨戸、一千二百元(漢口總領事ノ査定ニ依ル漢口發閣
下宛機密第五三九號附屬書(二)ノ(五)ノ金額)
田中、ナシ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ
支、漢口ヘ轉電セリ

429 昭和11年10月14日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件解決に関する交換公文案を中国側へ
手交について

別電一 昭和十一年十月十四日発在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛第八三三號
川越宛公文案

二 昭和十一年十月十四日発在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛第八三三號
岩井宛公文案

掠奪ニ依ル損害渡邊一千八百元、深川八百元(右ハ重慶
發閣下宛電報第五七號(七)現地ニ於ケル一應ノ調査ニ依ル)
ヲ加ヘタル額ヲ請求スルコトトス(重慶領事ニ於テ立替
ヘタル火葬費及骨壺代其ノ他檢視醫師ノ費用、遺族、關
係者ノ旅費、葬儀ノ費用等ハ先例竝ニ請求ノ限界等考慮
ノ餘地アルニ鑑ミ要求セサルコトトシ立替金等ノ精算ハ
關係者間ニ於テ適宜之ヲ處理セシム)

(一)負傷者ニ付テハ左ノ金額ヲ要求ス

(イ)見舞金トシテ死亡者弔慰金ノ一割六千元

(ロ)掠奪損害

瀨戸七千六百四元(漢口發閣下宛機密第五三九號附屬
賠償額明細書ノ(一))

田中一千八百五十二元(支發南京宛機密大第四七二號
附屬掠奪品目錄)

(ハ)治療費

瀨戸、漢口ノ分(漢口ニ確メ中)ニ成都ノ分トシテ百四
十元ヲ加ヘタル額(成都發上海宛機密第七七號附屬費
用分擔明細表瀨戸ノ分内譯醫務室心附、外人醫師診察
費及醫務室ニ於ケル治療等ノ合計概算)

第^⑧八三一號(極秘)

川越大使ヨリ

往電第八二九號須磨、高會談ニ際シ須磨ヨリ支宛貴電第二
二四號乙ニ關スル交換公文案トシテ別電第八三三號(大使
宛外交部長來翰譯文)及第八三三號(岩井宛劉湘來翰譯文)
ヲ高二手交セル處高ハ前者ニ付テハ大體異存ナキ模様ニテ
引取リタル趣ナリ

上海總領事、重慶ヘ轉電セリ

(別電一)

第^⑧八三三號(交渉?)

以書翰啓上候陳者本年八月廿四日成都ニ於テ貴國人四名ガ
侮辱、暴行、掠奪セラレタル上二名ハ傷害ヲ受ケ二名ハ殺
害セラレタル事件ニ關シ本部長ハ茲ニ國民政府ノ名ニ於テ
極メテ誠懇ナル態度ヲ以テ貴國政府ニ向テ深く陳謝致候

三 中国における邦人遭難事件

更ニ本部長ハ該事件ノ責任者タル四川省公安局長范崇實。及成都警備司令蔣縉。ハ月 日其ノ職ヲ免黜セラレ他ノ責任者タル ハ何レモ其ノ情狀ニ從ヒ處罰セラレタル旨並ニ該事件ノ犯人 及 以下 名ハ死刑ニ處セラレ、連累者 以下 名ハ夫々徒刑ニ處セラレタル旨貴大使ニ通告致候

更ニ本部長ハ國民政府ニ於テハ被害者ニ對スル賠償トシテ、死亡者渡邊洸三郎遺族ニ對シ

掠奪ニ依ル損害ニ對スル賠償

金 圓 錢也

弔慰金 金 萬圓也

計 金 萬 錢也

ニ死亡者深川經二遺族ニ對シ

掠奪ニ依ル損害ニ對スル賠償

金 圓 錢也

弔慰金 金 萬圓也

計 金 萬 錢也

ニ負傷者田中武夫ニ對シ

治療費 金 圓 錢也

休業ニ依ル損害ニ對スル賠償

金 圓 錢也

掠奪ニ依ル損害ニ對スル賠償

金 圓 錢也

見舞金 金 圓也

計 金 圓 錢也

四、負傷者瀬戸尙ニ對シ

治療費 金 圓 錢也

休業ニ依ル損害ニ對スル賠償

金 圓 錢也

掠奪ニ依ル損害ニ對スル賠償

金 圓 錢也

見舞金 金 圓也

計 金 圓也

右合計 圓 錢也

ヲ本日中ニ支拂フヘキ旨茲ニ併テ貴大使ニ對シ通告致候

此段申進シ旁本部長ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

民國二十五年 月 日

國民政府外交部長
張 群

大日本帝國特命全權大使
川越 茂殿

(別電二)

第[◎]八三三號(交渉?)

南京 10月14日前発
本省 10月14日前着

拜啓陳者八月二十四日四川省成都ニ於テ貴國人四名ガ侮辱、暴行、掠奪セラレタル上二名ハ傷害ヲ受ケ二名ハ殺害セラレタルハ本主席ノ頗ル遺憾トスル所ニシテ本主席ハ該事件ニ關シ貴領事ニ向ケ極メテ誠懇ナル態度ヲ以テ深く陳謝致候

本主席ハ自今責任ヲ以テ本省内ノ治安維持並ニ排日禁遏ニ當リ就中成都ニ於ケル貴國官民ノ執務、居住、營業等ノ安全ヲ保障シ進ンデ同方面ニ於ケル中日關係ノ増進ヲ計ル所存ナル旨茲ニ貴領事ニ向テ表明致候

此段申進メ旁得貴意候 敬具

民國二十五年 月 日
四川省
政府主席 劉 湘
成都駐在
日本領事 岩井 英一殿

430 昭和11年10月16日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件に関する劉湘の陳謝は省略されたき
旨高宗武提議について

南京 10月16日後発
本省 10月16日夜着

第[◎]八四四號(交渉、極秘)
往電第八三一號ニ關シ

川越大使ヨリ

本十六日高宗武ハ須磨ニ對シ成都事件ハ中央ニテ交渉シ居ル次第ニモアリ劉湘ノ陳謝ハ省略サレ度シト述ヘタルニ對シ須磨ヨリ事件發生地方ノ當局カ陳謝スヘキハ當然ノ事理ナル旨強く撥返シタルニ高ハ然ラハ今一應相談シ見ルヘキ

カ往電第八三三號ノ案文後半ノ居住營業等ノ安全保障ニ關スル部分ハ削除シテ可ナラスヤト言ヘルニ付須磨ヨリ責任當局カ是等ヲ保障ノ責アルコトモ亦當然ニシテ總領事館再開ノ點ヨリスルモ當前ナリトテ再考ヲ促シ置キタリ

~~~~~

431 昭和11年10月19日 在南京須磨總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

北海事件の解決条件につき請訓

南京 10月19日後発  
本省 10月19日夜着

第⑧四八號(交渉?)

川越大使ヨリ

目下交渉中ノ成都事件解決ノ目途付キタル上ハ之ト前後シテ北海事件其ノ他各事件ノ解決交渉ニ入ルノ段取トナルヘキ處北海事件ニ付テハ支那側ニ於テ既ニ或程度迄其ノ責任ヲ認め居ル次第ニモアリ大體支宛貴電第二二四號(乙)成都事件自體ノ解決條件ニ準シ左記條件ヲ要求スルコト然ルヘシト存セラルル處何分ノ貴見御同電アリ度ク尙廣東發閣下宛電報第四八二號ノ次第ハアルモ此ノ際李宗仁及白崇禧ノ陳

ノナシト認メラル)

支、廣東へ轉電セリ

~~~~~

432 昭和11年10月21日 在広東中村總領事より
有田外務大臣宛(電報)

北海事件の解決交渉を利用して李宗仁らの抗日主張撤廃を要求すべき意見具申

広東 10月21日後発
本省 10月21日後着

第⑤〇二號(交渉?)

南京發閣下宛電報第八四八號ニ關シ

排日ノ根本的は正ニ關シテハ北海事件ト切離シ折角御交渉中ノコトト存セラルル處

一李宗仁、白崇禧等廣西首腦者ハ過般中央トノ妥協成立後ト雖表面依然抗日救國ヲ主張シ且實行シツツアルハ往電第五〇一號ノ通ナルノミナラス彼等ハ眞意カ抗日救國ニアルハ往電第四九八號ニ依リテモ明瞭ナリ從テ今次日支交渉ノ一大目標タル排日ノ根絶ヲ南京政府ニ交渉セラルルニ當リテハ依然タル此ノ廣西ノ状態ヲ指摘セラレ李、

謝ハ支那側トシテ對内關係上相當困難ナルヘキノミナラス將來我方ノ對李、白關係上ヨリスルモ面白カラスト認メタルニ付形式上ノ地方責任者タル廣東省政府ノ陳謝トセル次第ナリ

記⑧

一、陳謝(文書ニ依ル)

(イ)國民政府(外交部長ヨリ本使)

(ロ)廣東省政府(主席黃慕松ヨリ中村總領事)

二、責任者ノ處罰

(イ)翁照垣(舊抗日救國軍獨立第一師長)、邱兆琛(同參謀

長)兩名ノ一切ノ官職ヲ剝奪シ將來モ之カ再任用ヲ爲

ササルコト(因ニ兩名ハ新聞報道ニ依レハ近ク下野外

遊スル趣ナリ)及北海公安局長ノ罷免

(ロ)其ノ他ノ責任者ノ處罰(認定ハ支那側ニ任ス)

三、犯人及連累者並ニ煽動者嚴罰

四、賠償

弔慰金 金六萬圓(往電第八二六號深川、田邊兩名ニ準

ス)

(尙掠奪被害ハ戸根木報告ニ依ルモ取立テテ言フヘキモ

白ノ抗日運動ノ即時停止方ヲモ併セ御要求相煩度シ

ニ抑北海事件ニ關シ形式上ノ責任者タル黃慕松ニ於テ陳謝スルコト素ヨリナルモ元來李、白ハ抗日意識ノ最旺盛ナル蔡廷楷等ヲ任用シ其ノ部下タル翁照垣及丘國珍カ事件ヲ惹起シタルモノナレハ其ノ責任ヲ免ルルヲ得サルコト明瞭ナリ(十月五日附機密第四三八號拙信參照)

將來我方ノ李、白ニ對スル關係ヲ考慮セラレ居ルモ過去ニ於ケル我方ト廣西トノ關係ニ鑑ミルニ兩者ハ單ニ相互利用ノ關係ニ過キス將來李、白ニシテ我方トノ親善ヲ有利ナリトセハ陳謝如何ニ拘ラス必ス接近シ來ルモノト思考ス彼等ノ抗日救國ノ主張ニ原因シ發生シタル北海事件ニ對スル責任ヲ一應主張セラルルニアラスンハ日本ノ排日要求(根絶要求)カ人ニ依リテ寬嚴ノ差アリトノ印象ヲ免レサルヘシ

孰レニスルモ廣西ノ抗日主張ヲ撤回セシムルコトハ此ノ際緊要ナリト認ムルニ付北海事件ヲ利用シ廣西ノ最高責任者タル李宗仁ノ陳謝ト抗日主張ノ撤廢ヲ要求セラレ其ノ不可能ナル場合ニ於テモ抗日救國ノ主張ハ撤回セシムル様御考慮仰度シ

尙又冒頭往電中ニハ翁及丘等ノ外遊説アルモ當地ニ於テハ第五路軍ノ師長トシテ任用セラルヘシト傳ヘラル本件ニ關シ川越大使ヨリ折角意見具申ノ次第ハアルモ借越乍ラ重テ卑見申進ス(當地海軍武官同意)
支、南京へ轉電セリ

433 昭和11年11月10日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件での劉湘陳謝は不要であるとの張群
意見を反駁について

南京 11月10日後発
本省 11月11日前着

第九一〇號?(至急、交渉、極秘)

往電第八九三號ニ關シ

川越大使ヨリ

本十日會談ノ際張群ハ本使ニ對シ既ニ中央政府ニ於テ陳謝スル以上地方長官ニ於テ謝罪スル必要ナルヘク先例モ亦然リト述ヘタルニ付(如何ナル先例ナリヤト問ヘルニ張ハ先念セルモ取調ノ結果確ニ先例アリト答ヘタリ)本使ヨリ

往電第九二三號ノ三(四)ニ關シ

川越大使ヨリ

往電第九三三號會談ノ際高宗武ヨリ成都事件賠償金額ニ付質問シタルニ對シ須磨ヨリ目下精算中ナルカ死亡者二名間ニハ多少ノ差アルモ大體何レモ五、六萬圓ノ間ナルヘシ負傷者見舞金ハ其ノ一割程度ニテ其ノ外掠奪ニ依ル損害、治療費、休業ニ依ル損害ヲモ含ムト述ヘタルニ高ハ別ニ驚キモセス考慮ノ上回答スヘシト答ヘ唯見舞金ハ撫恤金ト改メラレ度シト述ヘタルニ付差支ナカルヘシト答ヘ置キタル趣ナリ

重慶へ轉電セリ

435 昭和11年12月2日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

邦人遭難諸事件の各解決公文案を高宗武へ手交したところ成都事件以外の公文受領に難色を示したため各事件の急速解決方説得について

南京 12月2日後発
本省 12月2日夜着

事件ノ直接責任者中公安局長及警備司令ニ付テハ貴方ニ於テモ處罰ヲ承認セラレ居ル處最高ノ地方責任當局者タル劉湘ニ付テモ本來ナラハ當然處罰ヲ要求スヘキ筋合ナルニ拘ラス我方ハ國民政府ノ陳謝ニモ鑑ミ特ニ輕減シテ單ナル陳謝ヲ要求シ居ル次第ナリ就テハ今右スラ拒絕セラルルニ於テハ我方トシテハ已ムナク本來ノ筋道ニ歸リ改メテ劉ノ處罰ヲ要求セサルヲ得サルヘク支那側トシテモ既ニ下級責任者ノ處罰ヲ承認スル以上直接上官タル劉ノ責任ヲ否認スルコトハ不可能ナルヘシト説示セルニ張ハ理窟ハ其ノ通ナレハ更ニ考慮スヘシト答ヘタリ
支、重慶へ轉電セリ

434 昭和11年11月18日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件に対する賠償要求額を高宗武へ説明について

南京 11月18日後発
本省 11月18日夜着

第九三四號(至急、交渉、極秘)

*第九八九號

(1) 往電第九七六號ニ關シ

大使ヨリ

高宗武ハ段茂瀾ノ報告アル迄事實上張群ハ本使ト會見シ得スト頑張り又日獨、日伊ノ話合ヨリ事態ハ刻々惡化シ特ニ上海ニ於ケル諸有力者ノ交渉打切論旺トナレル次第モアリトテ洛陽行ヲ止メ二十八日上海ニ赴キ一日歸寧シタル處一方張群ハ黃郛危篤ノ報ニ接シ二十九日密ニ赴滬シ未タ歸寧ナキ爲不取敢須磨ヲシテ高宗武ニ交渉結末促進方ニ關シ往電第九九〇號ノ通り會談セシメタル上成都事件解決條件(豫テ手交セルモノ)竝ニ北海、吉岡、上海三事件等ノ解決條件ヲ御訓令ノ趣旨ニ依リ一書トセルモノニ基キ説明セシメ右一書及各事件ニ關スル日支交換公文案等ヲ手交セシメ是等諸事件ニ關スル解決ヲ至急達成スル様申入レシメタルニ高ハ之ヲ聽取リタル上成都事件ニ付テハ大體差支ナキコト豫テ話合ノ通りナルモ

(2) 吉岡事件竝ニ萱生事件ヲ除ク上海諸事件ハ何レモ租界内ニ發生シタルモノナレハ成都事件等ト同列ノ解決ハ考慮ノ餘地ナカルヘキハ勿論北海事件ニ關スル廣東省政府ノ報告ハ

之亦成都事件ト同列解決ヲ爲シ得サル實狀ノ如ク旁々是等諸事件ノ書類ヲ此ノ儘受領シ置カハ豫テ六項目等ノ會談議事録案ヲ受領シタル時ノ如ク張部長ヨリ一應返却方ヲ命セラルル惧モアレハ成都事件以外ノ文書ハ内容ノミヲ承ルコトトシ持歸ラレ度シト述ヘタルニ對シ須磨ハ言葉ヲ強クシテ其ノ不屈ヲ責メ且事件發生地域カ租界タルト否トヲ問ハス何レモ今ヤ支那全土ニ澎湃セル抗日機運ノ現レニ過キサル點ニ於テ全然同一視スヘキモノタル所以ヲ説明シ且我方ノ調査ニ依ルモ經過明白ナル北海事件迄難癖ヲ付クルニ至リテハ支那ハ何レノ事件ヲモ唯逃ケントスルモノト見ル外ナシト詰問シ結局押問答ノ上各事件ニ關スル我方ノ要求ヲ明白ナラシメ支那側ニ於テ前記我方提示ノ案文ニ基キ逐一急速解決考慮方ヲ約セシメタル趣ナリ

436

昭和11年12月[9]日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件および北海事件の解決に関する高宗

武との協議内容報告

別 電 昭和十一年十二月九日發在南京須磨總領事より

ツツ作成シタリトテ張部長來翰支那文案ヲ本官ニ提示セリ
ニ⁽²⁾本官ヨリ我方ノ建前ハ成都事件ヨリ發生時ノ順序ニ從ヒ一ツ一ツ片付ケ行ク方針故先ツ上海竝ニ吉岡事件等ニ關スル話ニハ應セサルコトトシ換言セハ支那側カ成都事件位ヲ解決シテ他ヲ有耶無耶ニセントスルコト張群ノ驅引ナリトセハ自由敷キコトニテ誠懇淡白ノ建前ニテ事件解決ニ當ルヘシト述ヘ來レル蔣介石及張群等ノ食言トモナル次第ナリト述ヘ免モ角無條件ニ成都事件ヲ解決スル様高ヲ納得セシメタル上北海事件モ成都ト同時一併解決ノ約束ナリシ點(冒頭往電⁽³⁾)ヲ指摘シテ北海ニ關スル措置振ヲモ尋ネタルニ高ハ實ハ自分トシテハ前言ヲ翻ス積リハ毛頭ナク既ニ昨八日廣東省政府ニ對シ北海公安局長其ノ他責任者ニ關スル事情ヲ電報ヲ以テ照會シタル程ナリ但シ張部長ヲシテ北海事件ヲモ同列ニ解決セシメ得ルヤハ今ハ確答シ得スト言ヘルニ依リ本官ヨリ是非共右ニ努力方急ヲ押シタル上支那側對案ニ付別電第一〇〇〇號ノ通り會談シタリ

有田外務大臣宛第一〇二六号
成都事件に関する中国側對案について

南京 12月9日發
本省 着

第一〇一五號

本官發支宛電報

第九九九號

大臣宛往電第一〇〇八號ニ關シ

成都事件ニ關シ今週初會談ノ筈ナリシモ黃郛死亡ノ爲赴滬セル張群昨八日歸寧シタル許リニテ漸ク本九日高宗武ト左ノ通り會談セリ

一先ツ高ヨリ行政院部内ハ免モ角支那軍部及黨部方面等ニハ綏遠及青島陸戰隊上陸事件等ノ重大性ニ鑑ミ成都事件以下ノ話ハ棒引トスヘシトノ議論サヘ出テ張部長モ相當躊躇セルカ自分等ヨリ極力成都事件ノ即決ヲ提議シ昨日下午張部長ヨリ上海三事件及吉岡事件ニ關スル日本側解決案ハ絕對ニ考慮ノ餘地ナキコトヲ先ツ日本ニ納得セシメタル上ナラテハ先ツ成都事件ノ話ニ掛ルヘシトノコトニテ支那側カ同事件解決案ヲ主トシテ日本側ノ希望ニ副ヒ

(別 電)

南京 12月9日後發
本省 12月9日夜着

第一〇一六號(交渉、極秘)

本官發支宛電報

第一〇〇〇號(至急、別電)

一成都事件外交部長來翰譯文案トシテ二日本官ヨリ高宗武ニ手交セルモノハ大臣宛往電第八三三號ノ案ニ劉湘ノ陳謝(大臣宛往電第八三三號)ヲ廢シ其ノ代リニ劉ハ譴責ニ附セラレタル旨ヲ明記シ且末尾ニ國民政府ニ於テハ將來此ノ種事件ノ發生ヲ見サル様最善ノ努力ヲ爲スヘキ旨記載シタルモノナリシ處(十二月四日附大臣宛機密公第七五三號ヲ以テ郵送濟)支那側對案ハ右ト大體同巧異曲ナルモ細點竝ニ之ニ關スル高宗武トノ應酬左ノ通

(イ)對案ハ被害者ニ對スル賠償ヲ別ニ切離シ之ヲ外交部ノ大使館宛節略トシ居リ死亡者兩名共弔慰金ハ三萬元宛トシ負傷者ニ對スル見舞金ハ削減シ居リ「掠奪ニ依ル損害ニ對スル賠償」ヲ「財産損失」ト改メ「弔慰金」ヲ「撫恤金」ト改メ居レリ支那側ハ見舞金ノ先例ナク

又一應ハ撫恤金トシテ幾分カ支出シ度キ考ナリシモ名目ノ如何ニ拘ラス負傷者ヘノ支出ハ勘辨アリ度シト説明セルニ對シ本官ヨリ大臣來電第二四〇號ノ次第ヲモ告ケツツ名目ハ兎モ角四千元ノ見舞金ヲ主張シ又死亡者撫恤金ヲ三萬元宛ニ値切ル等ハ大臣宛往電第九四〇號ノ次第ニモ鑑ミ言語同斷ナリト撥付ケ要スルニ事理明白ナル本事件ノ些々タル金額ニ迄駈引スル張群ノ作戰ハ思ハサル結果ヲ齎スヘシト切言シ再考ヲ約セシメタリ

(ロ)我方案冒頭ニハ「貴國人四名カ侮辱暴行云々」トアルヲ對案ハ「日本人四名成都ニ於テ變。故ニ遭遇シ云々」トアリ右ハ支那側ノ面子ヲ保ツ爲ニ過キス實質上ハ「誠懇ナル態度ヲ以テ深く歉意ヲ致ス」ト爲シ居リ日本提案ト同様ナリト歎願のニ説明シ居タルニ付了承シ置ケリ

(イ)對案ニハ我方案冒頭ノ「國民政府ノ名ニ於テ」及「貴國政府ニ向ツテ」ヲ削除シアルニ付本官ヨリ右ハ是非共必要ナル旨申聞ケタルニ高ハ大體納得シ居タリ

(ニ)對案ニハ劉湘譴責ノ點ヲ削除シ居リ事實事件直後既ニ

國民政府ニ於テ譴責シ居ル次第ナルモ之ヲ特ニ書翰ニ記載スルコトハ勘辨アリ度シト説明セルモ本官ヨリ元來ナラハ劉湘ノ陳謝ヲ求ムヘキ所ヲ大負ケニ負ケタル此ノ點ヲモ逃クルハ承諾シ難キニ付再考ヲ促ス旨述ヘ置キタリ

(ホ)對案ニハ主犯二名ノ氏名ヲ明記シ死刑ニ處シタル旨並ニ他ノ犯人四名ノ氏名ヲ明記シ徒刑ニ處シタル旨ヲ述フ

(ハ)對案ニハ我方案ノ末尾ニアル將來ノ保障ニ關スル一節ヲ削除シ居リ右ハ何レ排日取締ニ付テモ今後共商議ヲ續クル譯ナルヘキニ付本書翰案ニハ明記ヲ避ケ度シト述ヘタルニ對シ本官ヨリ本項ハ前記のニ點ト共ニ是非共我方案ノ通トスル必要アル旨強調シ置キタリ

(三)ニ右對案並ニ張群ニ對スル我方復翰案ノ末尾ニ夫々「本事件ハ既ニ完全ニ解決ヲ經タルモノナルコトヲ認ムル旨通告ス」トノ趣旨追加方要求アリタルニ付承諾シ置ケリ

ニ右ニ引續キ高ヲシテ更ニ本官要望ニ基キ對案ヲ修正シ一兩日内ニ支那側ノ決定的意嚮ヲ齎スコトニ約セシメタルカ本官ニ於テ至急解決方更ニ説得セルニ高ハ本件解決モ

行政院ニ附議ノ必要アルヘキニ付十五日火曜日ノ會議ニテ決定的トシ度キ意嚮ナリト答ヘタルニ依リ本官ヨリ然ラハ夫レ迄ニハ廣東省政府ヨリノ回答モ出揃フヘキニ付北海事件モ同時解決方強調セルニ高ハ努力スヘシト答ヘタリ

大臣へ轉電セリ

437 昭和11年12月12日 在南京須磨總領事より 有田外務大臣宛(電報)

成都事件および北海事件を同時かつ早急に解決するよう高宗武説得について

南京 12月12日後発
本省 12月12日夜着

* 第一〇二九號

本官發支宛電報

第一〇一二號

往電第一〇〇五號ニ關シ

本十二日高宗武ト會見シ先ツ大使發大臣宛電報第九八二號新聞報道ノ真相ヲ確メタルニ高ハ恐縮シテ實ハ亞洲司内ノ

下級職員カ出鱈目ヲ話シタル結果ナリシ爲早速昨日各紙ニ取消ヲ出シ置キタル次第ナルカ(本日各紙一齊掲載)唯政府及黨部内ニ今猶緩遠事件ノ落着迄成都事件等ノ話合ヲモ差控フヘキ旨ヲ主張スル者アリトテ冒頭往電ノ中央政治會議ノ模様等ヲモ述ヘタル上事件其ノモノノ解決ニ付テス以上ノ空氣ナレハ成都總領事館ノ再開ニ付テモ實ノ處反對論絶エサル狀況ナリト零シタルニ付本官ヨリ排日不祥事件解決ニ付テ迄内部ノ悶著ヲ持出シタレハトテ之丈ケハ最早聽取リ得ス約束通り遅クモ來週中ニハ成都、北海兩事件ヲ同時解決シ次テ直ニ岩井ヲ赴成セシムル様手配方絕對必要ナリト力説セルニ高ハ猶モ支那側内部ノ苦情ヲ述ヘ立テタルカ結局成都事件丈ケハ來週中位ニ何トカスヘキモ北海事件ハ何レ其ノ後ノ空氣ヲ見タル上ノコトトサレ度シト言ヘルカ本官ヨリ繰返シセツキタル結果高ハ兩事件同時解決方努力シ十四日中ニハ確答スヘシト答ヘ兩事件ニ付往電第一〇一三號及第一〇一四號ノ通り會談セリ

岩井赴成ノ時期ハ成都事件解決直後ノコトニ念ヲ押シ置ケリ

438

昭和11年12月12日

在南京須磨総領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件解決に関する中国側対案をめぐり高
宗武と協議について

南京 12月12日後発
本省 12月12日夜着

第一〇三〇號

本官發支宛電報

第一〇一三號

往電第一〇〇〇號ノ三ニ關シ

本十二日高ヨリ本官要望ニ基キ修正シタル對案ヲ提示シ
(爲念譯文別電第一〇一六號ヲ以テ電報ス)右ニ基キ左ノ通
リ會談セリ

一、冒頭往電ハ、(イ)賠償金額等ニ付日本側ニ於テ南京事件ノ
際ノ如ク今一層嚴重ナル査定ヲ加ヘラレ死者一人當リ三
萬元ヨリ多少多クトモ御申出額ニハ減額ヲ加ヘラレ又財
産損害等ニ付テモ餘程減額ヲ考ヘラレ度キ希望ナリ實ハ
支那側ノ調査ニ依レハ渡邊ハ月百數十弗、深川ハ百弗位
ノ月給ナリシトノ報告モアリ右様ノ考慮ヲ煩ハス次第ナ

ラサルヘキ付是非共此ノ點ハ書翰ニ明記スルコト丈ケハ
勘辦サレ度シト此ノ點モ掲ケ居ラス

二、結局押問答ノ上高ニ於テ賠償金額等ヲ一切我方申出ノ通
リトスル條件ノ下ニ本官ニ於テ前記三及四ノ二點ヲ請訓
シ見ルヘシトノコトニ話合ヲ着ケタルカ御意見モアラハ
十四日次回會見ニ間ニ合フ様御訓電ヲ請フ

439

昭和11年12月12日

在南京須磨総領事より
有田外務大臣宛(電報)

北海事件解決条件から黄慕松の譴責等を削除
するよう高宗武要請について

南京 12月12日後発
本省 12月12日夜着

第一〇三一號(至急、交渉、極秘)

本官發支宛電報

第一〇一四號

往電第一〇〇〇號ノ三、末段ニ關シ

本十二日本官ヨリ高宗武ニ對シ北海事件モ成都事件ト同時
ニ我方提示ノ案文通り解決方力説シ至急對案提示ヲ求メタ

リ又負傷者ニ對スル見舞金丈ケハ何トモ考慮ノ餘地ナキ
次第ナリト述ヘタルニ對シ本官ヨリ我方トシテハ既ニ最
モ嚴格ナル査定ヲ加ヘ又月收ノ如キハ支那側ノ情報出鱈
目ニシテ我方トシテ嚴肅ナル考慮ノ下ニ一定方式ニ依リ
極メテ内輪ニ計算シタル額ナレハ之ニ付テスラ問題ヲ起
スニ至テハ恐ラクハ日本政府ハ支那ノ無誠意ヲ公然責ム
ルノ外ナキニ至ルヘク又見舞金ニ付テハ名目ハ別トシ死
者ニ對スル賠償金ノ一割ニ當ル分ハ
當然ノ話ニシテ金額ニ付テハ絕對譲歩ナリ難シト言ヘル
ニ高ハ此ノ點ハ部長ニ於テ固執シ居レハ兎モ角報告スヘ
シト言ヘリ

一、冒頭往電ハ、(イ)ハ本官申出ノ通り修正方承諾セリ
二、冒頭往電ハ、(ニ)ニ付テハ從來省主席ノ譴責ヲ公ニセルコ
トナキ次第ニモアリ書翰ニ譴責ヲ記載スルコトハ勘辦ア
リ度シト此ノ點ヲ加ヘ居ラス但シ本官ノ追及ニ會ヒ新
聞位ニ譴責ノ事實ヲ洩ラスコトハ出來得ヘシト答ヘ居タ
リ

三、冒頭往電ハ、(ハ)ニ付テハ排日取締方今後共努力ノ積リニ
テ又保障ノ文句ノ有無ニ依リ解決ヲ左右(スル)程ニモア
ルニ高ハ廣東省政府ヨリノ回答モ出揃ヘルニ付何レ對案ハ
作成スヘキカ本件ニ付テモ成都事件ノ通り黃慕松ノ陳謝並
ニ譴責ヲ勘辦セラレ又翁照垣及邱國珍兩名ハ目下何等ノ官
職モ有セサル旨黃慕松ヨリ廣西側ト協議濟ノ趣ヲ以テ回電
越シ居ルニ付兩名ニ關スルコトハ省カレ度シト述ヘタルニ
付本官ヨリ黃ニ付テハ少クトモ譴責ヲ必要トシ又翁、邱兩
名カ果シテ現ニ官職ナキ場合ニ於テモ將來モ右兩名ヲ如何
ナル官職ニモ任命セサルヘキ旨ノ保障ヲ必要トスト述ヘ兎
モ角十四日中ニハ支那側對案作成ノ上更ニ會談方申聞ケ置
キタリ

大臣へ轉電セリ

440

昭和11年12月14日

在南京須磨総領事より
有田外務大臣宛(電報)

西安事件の發生に鑑み成都事件および北海事件
の解決遅延を了解あるよう高宗武要望について

南京 12月14日前発
本省 12月14日前着

第一〇三九號(交渉、極秘)

本官發支宛電報

第一〇二二號

往電第一〇二二號ニ關シ

本十三日外交部ヨリ大使館宛ニ國民政府ハ今次事件ニ對スル各般ノ手配ヲ整備シ居リ又各地方官憲ニ對シテモ治安ノ維持ニ努ムル様訓令濟ナレハ諸事平常通り運行シ行クヘキ旨通報越シタル關係モアリ旁本十三日夜本官ヨリ高宗武ニ對シ成都、北海兩事件ノ解決ハ約束通り速急片付クヘキ旨申入レ見タルニ高ハ今次事件ノ爲自然多少遲滯スルコト已ムヲ得サルヘキニ依リ了承アリ度シト繰返シ居タルカ本官ヨリ更ニ約束ノ履行ヲ申入レ何レ明十四日中ニハ又會見方申聞ケ且其ノ他ノ不祥事件ニ付テモ引續キ商議續行方申入レ置キタルカ事實國民政府ハ流石周章狼狽ノ様子否ミ難ク外交部モ夜半ニ至ル迄多忙ヲ極メ居レリ尤モ今朝來多少軍隊カ上流ニ移動シ居リ各要人住宅ノ警護嚴重ヲ加ヘ居ル處市面今ノ所別段異狀ヲ認メス

大臣ヘ轉電セリ

然ラハ高ニ於テ責任ヲ以テ兩事件ヲ同時ニ解決スルコトニ致スヘキニ付往電第一〇一三號ノ三及四ノ兩點ヲ承諾アリタシト言ヘルニ依リ本官ヨリ何レ北海事件ニ關スル支那側對案ヲ見タル上ニテ確答スヘシト述ヘ十五、六日迄ニハ右對案ヲ討議シ二十日迄ニ解決スルコトナルニ於テハ前記二點ニ付大体考慮ヲ加ヘ得ヘシト答ヘ置キタリ(賠償金額ニ付テハ未タ多少澁リハ居タルモ結局我方案通りト爲シ得ル見込ナリ)

442 昭和11年12月30日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件および北海事件解決に関する中国側

との交渉妥結について

南京 12月30日後発
本省 12月30日夜着

第一一五四號(大至急)

一、貴電第二八〇號ニ關シ

御來示ノ通り修正方再三揉合ヒタルモ應諾セス已ムナク冒頭貴電末段括弧内ノ通り邦譯スルコトニ折合ヒタリ

441 昭和11年12月14日

在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

西安事件に拘泥することなく成都事件および北海事件を迅速解決するよう高宗武説得について

南京 12月14日後発
本省 12月14日夜着

* 第一〇四三號

本官發支宛電報

第一〇二六號

往電第一〇二二號ニ關シ

本十四日本官高宗武ニ對シ兩事件ノ速急同時解決ヲ強調シタルニ高ハ張部長ハ西安事件ノ爲本件解決ニ全然氣乗薄ニモアリ一段落付ク迄待タレ間敷キヤト述ヘタルニ對シ今次事件等ノ際ニモ既定方針ニ基キ遲滯ナク解決シテコソ多少ナリトモ國民政府カ兩事件ニ對シ陳謝スル意味モ現ルヘク逆ニ此ノ機會ニ又復遷延策ヲ執ルニ於テハ時局柄日本ノ對支感情面白カラサルモノアルニモ鑑ミ若シ張群ニ於テ澁リ居ルナラハ本官ト共ニ今ヨリ張部長ニ面談シ兩人ニテ強ク再考ヲ促スヘキ旨迫リタルニ高ハ座ヲ外シテ相談シ歸リテ

ニ依テ本三十日附ヲ以テ本日午後公文交換ヲ爲スコトニ決定セリ(四時高宗武本官來訪五時本官外交部往訪)
三、我方往翰ハ往電第一一五六號(成都事件)及往電第一一五七號(北海事件)ノ通り(支那側來翰邦譯ハ右往翰ニ依リ御承知アリ度シ)
四、兩事件解決ノ次第ハ左記前文ヲ附シ本日(當地時間)午後七時双方公文ヲ其ノ儘東京及當地ニ於テ發表ス

記

本年八月二十四日成都ニ於テ發生セル邦人被害事件、竝ニ同九月三日北海ニ於テ發生セル邦人被害事件ニ付テハ豫テ日支兩國政府間ニ之カ解決方交渉中ナリシ處本日附ヲ以テ張外交部長、川越大使間ニ左記公文ヲ交換シ右兩事件自體ハ解決ヲ告ケタリ
五、十二月十四日附機密第七八一號成都事件賠償金内譯ニ關スル外交部節略ハ發表セサル様外交部ヨリ特ニ希望アリシニ付應諾シ置ケリ從テ發表ハ來往翰ノミニテ金額内譯ハ公表セラレサル様致度シ
六、成都總領事館再開ニ付テハ更ニ高宗武ニ駄目ヲ押セルニ再開及岩井ノ赴成ハ勿論異存ナキモ本件解決ト同時トス

ルコトハ對内關係上困難アルノミナラス劉湘ヨリモ未タ都合ヲ返電シ來ラサル關係モアリ今暫ク猶豫アリ度シト述ヘ居ルニ付我方限り兩事件ノ解決發表ト同時ニ左記要旨ヲ新聞記者ニ對スル應答ノ形ニテ發表ス
「在成都帝國總領事館ハ中國政府側ニ於テ諸般ノ準備完了スルヲ待チ近ク再開ノ豫定ナリ」
支ヘ轉電セリ

443 昭和11年12月30日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

成都事件解決に関するわが方返簡

南京 12月30日後発
本省 12月30日後着

第一一五六號(大至急)

書翰ヲ以テ啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左ノ通り御照會相成リ諒承致候

本年八月二十四日日本人四名成都ニ於テ變故ニ遭ヒ其ノ内二名負傷シ二名死亡セル事件ニ關シテハ本部長ハ茲ニ政府ヲ代表シ誠懇ノ態度ヲ以テ貴國政府ニ對シ深く歉意ヲ表シ

敬具

昭和十一年十二月三十日

大日本帝國特命全權大使 川越 茂

國民政府外交部長 張群閣下

444 昭和11年12月30日 在南京須磨總領事より
有田外務大臣宛(電報)

北海事件解決に関するわが方返簡

付記 昭和十一年十二月三十日公表

「成都及北海兩事件ニ關スル外務當局談」

南京 12月30日後発
本省 12月30日夜着

第一一五七號(大至急)

書翰ヲ以テ啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左ノ通り御照會相成リ承致候

本年九月三日日本商人中野順三カ廣東北海ニ於テ變故ニ遭遇セル件ニ關シテハ本部長ハ茲ニ政府ヲ代表シ誠懇ノ態度ヲ以テ貴國政府ニ對シ歉意ヲ表シ候

當時北海地方ノ狀態特殊ニシテ又事件忽卒ノ間ニ起リシ爲

候

事變ニ際シ地方當局ハ彈壓、救護シタルモ省會警備司令蔣尙撲及公安局長范崇實ハ防衛上行届カサル點アリタルニ付中國政府ハ既ニ該兩名ヲ免職シ又警備司令部營長曹午堃、連長劉堯古、公安局科長鄧介雄、隊長孫岳年、分局長康振等モ亦等シク既ニ夫々處分致候

本事件ノ首犯者劉成先、蘇得勝ハ既ニ死刑ニ處シ其ノ他ノ犯人岑群、王述清、彭定宅、劉子雲等モ亦既ニ夫々處罰致候

中國政府ハ死者渡邊洗三郎及深川經二ノ遺族ニ對シテハ夫々實際ノ損害額及相當ノ弔慰金ヲ給與シ負傷者田中武夫及瀨戸尙ノ兩名ニ對シテハ夫々醫藥實費、實際ノ損害額等ヲ給與致スヘク其ノ金額ハ別信ヲ以テ通知ノ通りニ有之候
中國政府ハ前顯辦法ニ照ラシ處理シタル上ハ本事件ハ既ニ解決セルモノト致度候

尙死者ノ遺族及負傷者ニ對スル各費合計中國貨幣^(九カ)五萬八千八百八十七元一角也正ニ受領致候

仍テ本使ハ本事件自體ハ解決ヲ告ケタルモノト認定致候
此ノ段回答旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

關係當局ハ相當措置ヲ講シタルモ保護周到ナラサリシモノアリ當時實際上該地方警備ノ責ヲ負ヒタル人員翁照垣、邱國珍ハ早くモ既ニ遊^(放)逐シ公安局長陳鎮モ亦既ニ職ヲ去リタル爲處分ノ由ナキニ立至リ候
本事件ノ犯人ハ既ニ情狀ノ輕重ニ應シ夫々處分致候

中國政府ハ該日商中野順三ノ遺族ニ對シ弔慰金三萬元ヲ給與致スヘク候

中國政府ハ前顯辦法ニ照シ處理シタル上ハ本事件ハ既ニ解決セルモノト致度右御了承相成度候

尙被害者遺族ニ對スル弔慰金中國貨幣三萬元也正ニ受領致候

依テ本使ハ本事件自體ハ解決ヲ告ケタルモノト認定致候
此ノ段回答旁本使ハ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十一年十二月三十日

大日本帝國特命全權大使 川越 茂

國民政府外交部長 張群閣下

(付記)

成都及北海兩事件ニ關スル外務當局談

(十二月三十日公表)

成都其他今次排日不祥事件ニ關スル日支交渉ニ當リ帝國政府ノ執リ來ツタ方針竝ニ交渉ニ對スル政府ノ見解等ハ十二月十日外務當局談ノ通りテアルカ、成都、北海等個々ノ事件ニ關スル善後措置ニ就テハ、十二月三日在支帝國大使館聲明書ノ趣旨ニ依リ主トシテ在南京須磨總領事ト高亞洲局長トノ間ニ事務的折衝ヲ續ケテ來タ結果、成都及北海ノ兩事件ニ關シテハ十二月三十日附ヲ以テ川越大使ト張外交部長トノ間ニ左記ノ如キ文書ノ交換ヲ了シタ。

(一) 成都事件

張外交部長ヨリ川越大使宛ニ

「本年八月二十四日日本人四名成都ニ於テ變故ニ遭ヒ其ノ内二名負傷シ二名死亡セル事件ニ關シテハ本部長ハ茲ニ政府ヲ代表シ誠懇ノ態度ヲ以テ貴國政府ニ對シ深く歉意ヲ表シ候

事變ニ際シ地方當局ハ彈壓、救護シタルモ省會警備司令蔣尙撲^(漢)及公安局長范崇實ハ防衛上行届カサル點アリタルニ付中國政府ハ既ニ該兩名ヲ免職シ又警備司令部營長曹午堃、連長劉堯古、公安局科長鄧介雄、隊長孫

岳年、分局長康振等モ亦等シク既ニ夫々處分致候
本事件ノ首犯者劉成先、蘇得勝ハ既ニ死刑ニ處シ其ノ他ノ犯人岑群、王述清、彭定毛、劉子雲等モ亦既ニ夫々處罰致候

中國政府ハ死者渡邊洸三郎及深川經二ノ遺族ニ對シテハ夫々實際ノ損害額及相當ノ弔慰金ヲ給與シ負傷者田中武夫及瀨戸尙ノ兩名ニ對シテハ夫々醫藥實費、實際ノ損害額等ヲ給與致スヘク其ノ金額ハ別信ヲ以テ通知ノ通りニ有之候

中國政府ハ前顯辦法ニ照ラシ處理シタル上ハ本事件ハ既ニ解決セルモノト致度候」

旨申越シ、之ニ對シ川越大使ハ右ヲ了承スルト共ニ、死者ノ遺族及負傷者ニ對スル諸費合計中國貨幣九萬八千八百八十七元一角也ヲ受領セル旨回答シタ。

(二) 北海事件

張外交部長ヨリ川越大使宛ニ

「本年九月三日日日本商人中野順三カ廣東北海ニ於テ變故ニ遭遇セル件ニ關シテハ本部長ハ茲ニ政府ヲ代表シ誠懇ノ態度ヲ以テ貴國政府ニ對シ歉意ヲ表シ候

當時北海地方ノ狀態特殊ニシテ又事件忽卒ノ間ニ起リシ爲關係當局ハ相當措置ヲ講シタルモ保護周到ナラサリシモノアリ當時實際上該地方警備ノ責ヲ負ヒタル人員、翁照垣、丘國珍ハ早クモ既ニ放逐シ公安局長陳鎮モ亦既ニ職ヲ去リタル爲處分ノ由ナキニ立至リ候

本事件ノ犯人ハ既ニ情狀ノ輕重ニ應シ夫々處分致候
中國政府ハ該日商中野順三ノ遺族ニ對シ弔慰金三萬元ヲ給與致スヘク候

中國政府ハ前顯辦法ニ照シ處理シタル上ハ本事件ハ既ニ解決セルモノト致度右御了承相成度候」

旨申越シ、之ニ對シ川越大使ハ右ヲ了承スルト共ニ、被害者遺族ニ對スル弔慰金中國貨幣三萬元也ヲ受領セル旨回答シタ。

尙在成都帝國總領事館ハ支那側ニ於テ諸般ノ準備完了スルヲ俟チ近ク再開ノ豫定テアル。